

高橋IV遺跡（古屋地区遺跡群） 発掘調査報告書

—老人スポーツ広場用地取得事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2009

群馬県安中市教育委員会

高橋IV遺跡（古屋地区遺跡群） 発掘調査報告書

—老人スポーツ広場用地取得事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2009

群馬県安中市教育委員会



高橋IV遺跡群全景



K-1号填出土刀1



K-1号填出土刀2

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、上毛三山に囲まれた田園都市です。高橋IV遺跡は九十九川の「花の木橋」の下流右岸に位置しています。本遺跡は、同体営担当手賀成基盤整備事業古屋地区の事業実施に先立ち、平成11年度から平成15年度にかけて調査が行われた、「古屋地区遺跡群」に含まれる遺跡です。

古屋地区遺跡群は、平成11年度に高橋遺跡・13年度に高橋II遺跡・14年度に高橋III遺跡の調査が行われ、八咫川が九十九川に注ぎ込む流末の舌状微高地先端部分に、弥生時代から古墳時代にかけての大規模な村の跡が発見されました。本遺跡は古屋地区遺跡群の北西端に位置し、弥生時代から古墳時代にかけての村の続きが発見されました。

今回の発掘調査では、弥生時代の住居址7軒、5世紀後半の住居址3軒、6世紀前半の住居址1軒、古墳1基が検出されました。高橋遺跡・高橋II遺跡・高橋III遺跡と合わせ、当時の村の集落構成などを解明する上で、貴重な資料を得ることが出来ました。

発掘調査はこの様な貴重な文化財を後世に残すことを目的とし、記録保存の措置を講ずるもので。

こうした埋蔵文化財はかけがえのない郷土の遺産であり、市民のみなさまに郷土の歴史を学習していただけるよう広く活用を図り、文化財愛護の精神を広く普及するよう努めていく所存です。

終わりに、長期に渡る発掘調査に御協力いただいた地元の皆様や、安中市の文化財行政の一端を担い、発掘調査に従事していただいた方々には、この場を借りて感謝の意を表したいと存じます。

平成21年3月

安中市教育委員会
教育長 中澤 四郎

例　　言

- 1 本書は安中市土地開発公社が実施した老人スポーツ広場用地取得事業に伴う高橋IV遺跡(D-23)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成19年度に行い、遺物整理は平成19年度から平成20年度に安中市土地開発公社より委託を受けて実施した。
- 3 発掘調査は安中市教育委員会直営で実施し、学习の森文化財係主査(文化財保護主事)千田茂雄が担当、鬼形教子が補佐をした。
- 4 本書の編集・執筆等は千田、鬼形、上原由美が行った。
- 5 遺構の写真撮影は千田が行った。航空写真是(株)測研に委託して行った。
- 6 遺構の版組、写真図版の作成は、千田、鬼形、上原が行った。
- 7 土器実測・トレース・属性表作成の一部を(有)毛野考古学研究所に委託して行った。
- 8 遺物写真的撮影は(有)毛野考古学研究所に委託して行った。
- 9 調査区の国家座標取付及び、測量基準杭の設置は(株)桜井測量設計が実施した。
- 10 今回の調査における記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。
- 11 調査及び遺物整理の期間中多くの方々に有益な指導、助言、協力を行っていただいた。また発掘調査及び遺物整理に従事していただいた方に厚くお礼申し上げます。

(指導・助言 敬称略)

折館伸二 外山政子 長井正欣 畑 大介 平野進一 三浦京子 (有)毛野考古学研究所
(株)桜井測量設計 若狭 徹

(調査從事者 敬称略)

岩井英雄 上原由美 宇佐美璋一 小野 毅 鬼形教子 萩原治枝 廣上良枝 (故)山本
吉輝

調査組織

平成19年度

教育委員会事務局

教育長 中澤 四郎

教育部長 佐藤 伸太郎

学習の森所長 小島 成公

文化財係長 藤巻 正勝

主　　査 蜂須賀 まゆみ

同 (文化財保護主事) 璧 伸明

同 (文化財保護主事) 千田 茂雄 (調査担当)

同 (文化財保護主事) 深町 真

同 新井 雅彦

主　　任 (文化財保護主事) 井上 慎也

平成20年度

教育委員会事務局

教 育 長 中 澤 四 郎

教 育 部 長 本 田 英 夫

学習の森所長 小 島 成 公

文化財係長 藤 卷 正 勝

上 査 蜂須賀 まゆみ

同 (文化財保護主事) 堤 伸 明

同 (文化財保護主事) 千 田 茂 雄 (調査担当)

同 (文化財保護主事) 深 町 真

同 新 井 雅 参

主 任 (文化財保護主事) 井 上 慎 也

凡 例

1. 高橋IV遺跡全体図の縮尺は1/400・1/200である。

2. 住居址等遺構の縮尺は1/80・1/160・1/320である。

3. 遺物の縮尺は次のとおりである。

土 器 1/4

埴 輪 1/4

刀 1/5

4. 土層説明中の記号、略称は次の通りである。

色調 < : より明るい方向を示す (例1<2 : 1より2の方が明るい)

しまり、粘性 ◎ : あり、○ : ややあり、△ : あまりない、× : なし

混入物 ◎ : 大量、○ : 多量、△ : 少量、* : 若干、× : なし

WP : 白色粒子、YP (A s - YP) : 板鼻黄色軽石層、RP : ローム粒子、RB : ロームブロック、B (A s - B) : 浅間B軽石、BP : 板鼻褐色軽石層

5. 住居址実測図の●はセクション及びエレベーションのポイントを示す。

6. 柱穴のスクリントーンは

20~39  40~59  60~ 

本文目次

序
例　　言
凡　　例
本文目次
挿図目次
表　　目
図版目次

I 調査に至る経過.....	1
II 調査の方法と経過.....	1
III 遺跡の地理的・歴史的環境.....	2
IV 紹序.....	6
V 遺跡概要.....	7
VI 遺構と遺物.....	9
VIIまとめ.....	47

挿図目次

第1図 高橋IV遺跡と周辺遺跡の位置図.....	3	第18図 Y-2号住居址出土の遺物	24
第2図 高橋IV遺跡調査区設定図.....	4	第19図 Y-3号住居址出土の遺物	25
第3図 高橋遺跡・高橋IV遺跡グリッド対応図.....	5	第20図 Y-3号・Y-5号住居址出土の遺物	26
第4図 基本層序柱状図.....	6	第21図 YH-1号住居址出土の遺物	27
第5図 高橋IV遺跡全体図.....	8	第22図 H-1号・H-2号・H-3号住居址出土の遺物	28
第6図 Y-1号住居址実測図	11	第23図 K-1号墳 墓輪1	29
第7図 Y-2 (A)・(B)号住居址実測図	12	第24図 K-1号墳 墓輪2	30
第8図 Y-3 (A)・(B)号住居址実測図	13	第25図 K-1号墳 墓輪3	31
第9図 Y-5号住居址実測図	14	第26図 K-1号墳 墓輪4	32
第10図 YH-1 (Y住)号住居址実測図	15	第27図 K-1号墳 墓輪5	33
第11図 YH-1 (H住)号住居址実測図	16	第28図 K-1号墳 墓輪6	34
第12図 H-1号住居址実測図	17	第29図 K-1号墳 上器	34
第13図 H-2号住居址実測図	18	第30図 K-1号墳 刀実測図	35
第14図 H-3号住居址実測図	19	第31図 16分割遺物出土分布図 (1)	43
第15図 K-1号墳実測図	20	第32図 16分割遺物出土分布図 (2)	44
第16図 K-1号墳石室実測図	21	第33図 16分割遺物出土分布図 (3)	45
第17図 Y-1号住居址出土の遺物	23	第34図 16分割遺物出土分布図 (4)	46

表 目 次

第1表 住居址觀察表	22	第6表 出土上器觀察表(5)	40
第2表 出土土器觀察表(1)	36	第7表 墓輪觀察表(1)	41
第3表 出土土器觀察表(2)	37	第8表 墓輪觀察表(2)	42
第4表 出土土器觀察表(3)	38	第9表 陶觀察表	42
第5表 出土土器觀察表(4)	39		

図 版 目 次

図版1 高橋IV遺跡遠景	高橋IV遺跡全景		
図版2 高橋IV遺跡全景	K-1号墳全景		
図版3 Y-1・H-3	Y-2(A)・(B)	Y-3(A)・(B)	Y-5
図版4 YH-1	H-1	H-2	K-1
図版5 K-1			
図版6 Y-1号住出土遺物			
図版7 Y-2号住出土遺物(1)			
図版8 Y-2号住出土遺物(2)			
図版9 Y-3号住出土遺物(1)			
図版10 Y-3号住出土遺物(2)			
図版11 Y-3号住出土遺物(3)			
図版12 Y-5号住出土遺物			
図版13 YH-1号住出土遺物(1)			
図版14 YH-1号住出土遺物(2)	H-1号住出土遺物		
図版15 H-2号住出土遺物	H-3号住出土遺物(1)		
図版16 H-3号住出土遺物(2)	K-1号墳出土遺物		
図版17 K-1号墳	埴輪(1)		
図版18 K-1号墳	埴輪(2)		
図版19 K-1号墳	埴輪(3)		
図版20 K-1号墳	埴輪(4)		
図版21 K-1号墳	埴輪(5)		
図版22 K-1号墳刀1	K-1号墳刀2		

I 調査に至る経過

平成18年安中市土地開発公社より、老人スポーツ広場用地取得事業に係る埋蔵文化財の取り扱いに關し協議を行いたいとの申し出が、市教育委員会にあった。該当地区は市内遺跡詳細分布調査により、周知の遺跡地として確認されている場所であり、また団体営柵い手育成基盤整備事業古屋地区の事業実施に先立ち、平成11年度から平成15年度にかけて調査が行われた、『古屋地区遺跡群』の北西端に位置し、弥生時代から古墳時代にかけての村の続きが発見される可能性が非常に高い旨を市土地開発公社に回答した。

その後市土地開発公社と市教育委員会の間で、文化財保護のための協議を行った。協議に於いては文化財保護のための計画変更をも含め、再びにわたり行われた。

しかし地元の要望も大きく、計画変更をしても埋蔵文化財への影響は避けられないことから、当初の計画どおり事業を実施することとなった。

そのため市教育委員会では、事業実施により埋蔵文化財に影響を受ける部分について発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることとなった。

II 調査の方法と経過

調査はまず、対象地区内に試掘トレンチを開け、埋蔵文化財の有無の確認を行った。埋蔵文化財の存在が確認された箇所については、事業実施に伴い埋蔵文化財に影響が生じる範囲に限定し発掘調査を行った。

発掘調査に於いては、今回の調査対象地区が『古屋地区遺跡群』の高橋遺跡北西端に位置することから、『古屋地区遺跡群』で設定したグリッドを延長してグリッド設定を行った（高橋遺跡・高橋IV遺跡グリッド対応図参照）。グリッドは、1グリッドが4m×4mで北西隅を基点とし、北から南へA、B、C…西から東へ1、2、3…と呼称するようにした。また、グリッドをさらに四分した2m×2mの細グリッドを設定し、北西、北東、南西、南東の順にアルファベットの小文字でa、b、c、dと呼称することとした。そして、座標値は国家座標に取り付けた。国家座標値は、1B-2グリッドがX=36544.0、Y=-86836.0、10-9グリッドがX=36492.0、Y=-86808.0、1J-10グリッドがX=36512.0、Y=-86804.0である。

調査はバックホーによりIV層（灰色泥層）上面まで掘削し、その後人力により遺構、遺物の確認作業を実施した。確認された遺構は順次精査を行い、遺構測量用の航空写真撮影を行い遺構図を作成した。航空写真及び遺構測量航空写真は株式会社測研に委託し、ラジコンヘリコプターにより行った。また各遺構やテストトレンチの上層断面図は、それぞれ必要に応じ縮尺1/40を基本として作成した。

遺物の取り上げは基本的に各遺構ごとに行った。住居址についてはセクションのラインを基準に16に分割し、各層位ごとに分層して取り上げる16分割分層方式にて行った。しかし遺構

が重複し、プラン確認時点に於いて各遺構の広がりや切り合い関係が明確でない場合、全体を覆うように分割を行い、北西隅を基点とし東側に進むよう通し番号を付けることとした。遺構以外の部分については、グリッドを四分した $2\text{m} \times 2\text{m}$ の細グリッドで層位毎に取り上げた。また、必要に応じて、遺構・遺物の写真撮影を行った。

遺物整理は、発掘調査と平行しながら平成20年度までの間断続的に実施した。

作業は、遺物の水洗・注記→接合・復元→実測・拓本→トレース・写真撮影の順で行い、並行して遺構図面の整理・素図作成、トレース、写真整理を行った。遺物の実測・トレース・属性分析等の一部は整理作業の省力化を行うため、有限会社毛野考古学研究所に業務委託した。

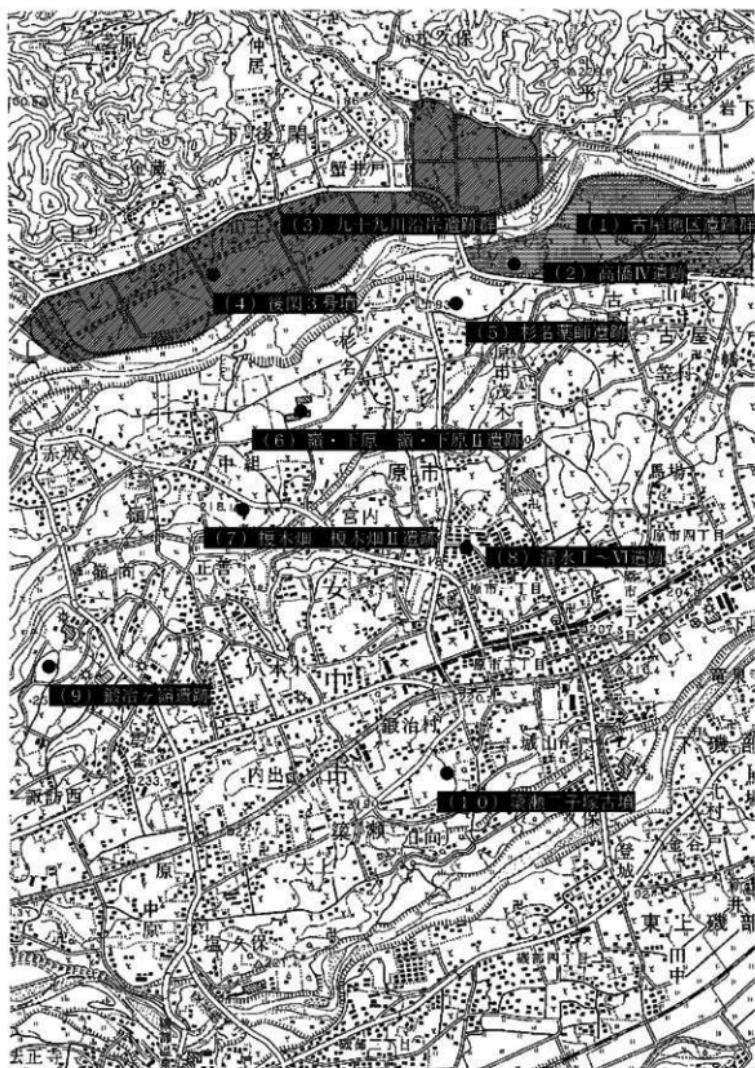
III 遺跡の地理的・歴史的環境

古屋地区遺跡群は群馬県安中市古屋に存在し、巾内上後閑・中後閑・下後閑を流れる九十九川中流域の低地に広く位置する。九十九川の流域には、西方の松井田町から続く連續性の良い河岸段丘が発達し流域に広く分布している。九十九川とそれに合流する後閑川付近の河川南岸には下位段丘面が見られ、下位段丘の段丘崖も連続して続いている。九十九川の流域は市内の他の河川と比べても広い低地が広がっており、川幅も広く緩やかな谷底となり、現在も水田耕作が盛んに行われている。

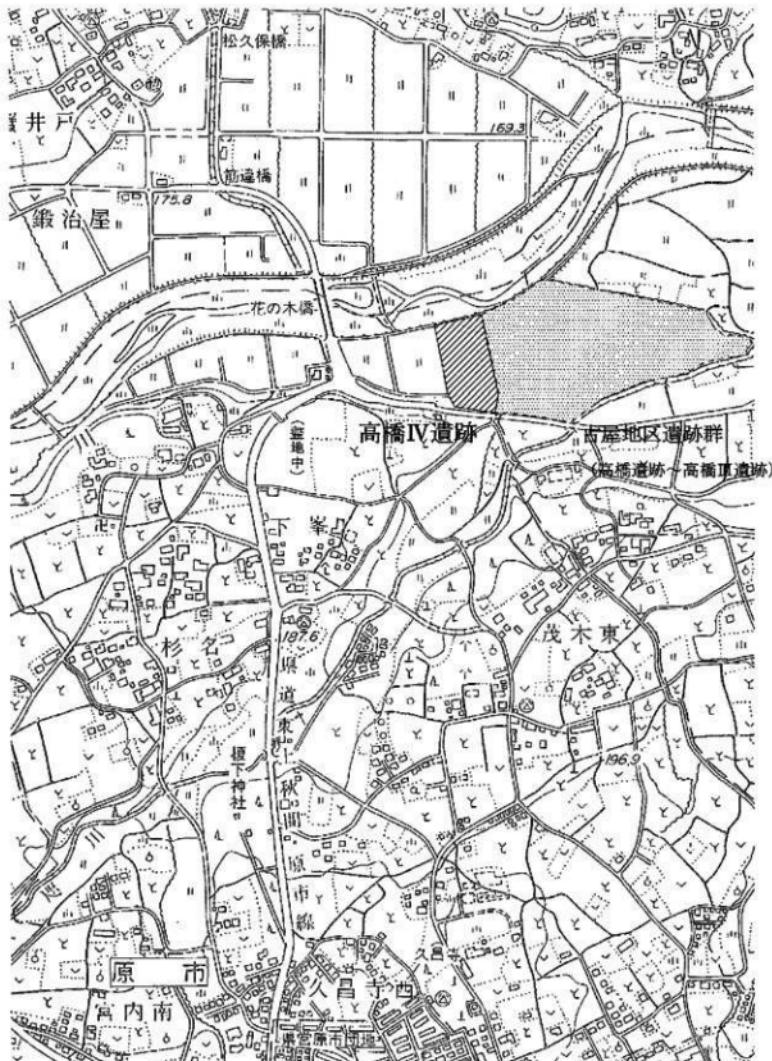
周辺の遺跡を概観すると、本遺跡の上流の九十九川低地には、A s-B 軽石直下の水田址を確認した九十九川沿岸遺跡群（3）が存在する。九十九川沿岸遺跡群と本遺跡は同じ河川低地に広がっているため九十九川沿岸遺跡群同様 A s-B 軽石直下の水田址の存在が予想されたが、河川氾濫による土砂の流出により水田址を確認することはできなかった。また、九十九川沿岸遺跡群中には6世紀初めに造られたと考えられる後閑3号墳（4）がある。この古墳は、関東地方では最も古い横穴式石室を有する古墳の一つとして知られる、梁瀬二子塚古墳（10）と密接な関係があったと考えられている。

次に、九十九川の河岸段丘上に目を移すと、弥生時代・古墳時代の集落遺跡である杉名薬師遺跡（5）が存在する。本遺跡は杉名薬師遺跡の北東約400mに位置し、同時期の集落遺跡のため両者の関係が注目される。このほか縄文時代前期後半から中期及び奈良・平安時代の集落遺跡である櫻木畠遺跡（7）。奈良・平安時代の工房あるいは官衙的な性格が推測される嶺・下原・嶺下原II遺跡（6）。縄文時代前期前半、奈良時代の住居址を確認した清水遺跡I区（8）、縄文時代前期、中期、平安時代の住居址及び奈良時代の官的な資格を持つと考えられる掘立柱建物址を確認した鍛冶ヶ嶺遺跡（9）。奈良時代の集落と、東日本に於いて初めて検出された中世（15世紀末から16世紀初頭）の瓦質陶器生産窯の清水遺跡II区（8）等がある。

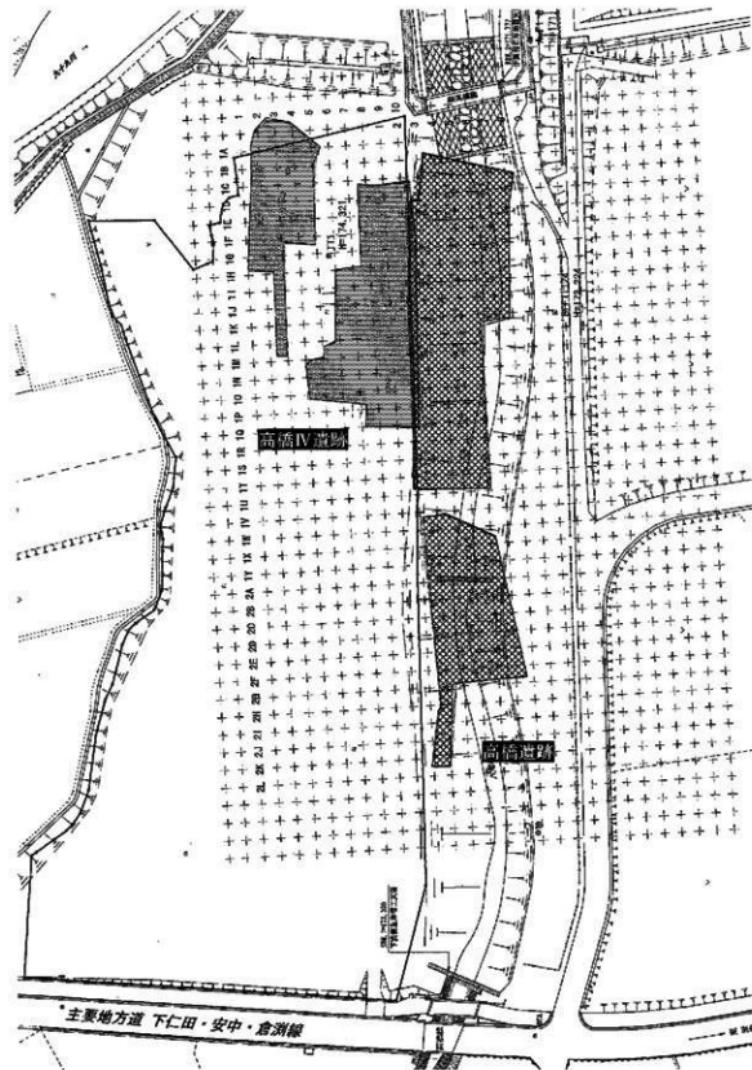
この様に、九十九川上位段丘上の嶺地区は工房や官的な性格を持つ遺跡が数多く存在し、東山道との関係も含め古代を考える上で貴重な地区と言えることができる。



第1図 高橋IV遺跡と周辺遺跡の位置図



第2図 高橋IV遺跡調査区設定図



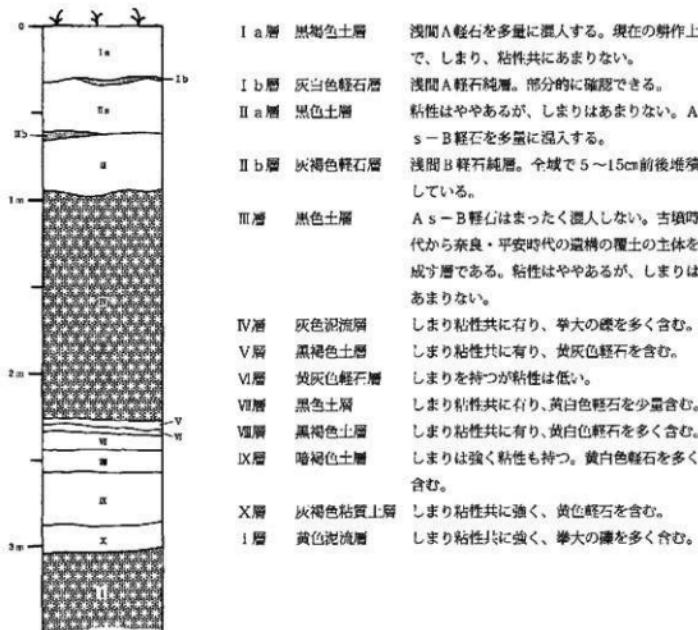
第3図 高橋遺跡、高橋IV道跡グリッド対応図

IV 層序

高橋IV遺跡の基本層序は、古屋地区遺跡群と同様で第4図のとおりである。I層からⅢ層までは、安中市内の集落遺跡と同様な層順を示すが、Ⅲ層以下は泥流層が2枚確認され、高橋遺跡特有の上層堆積が確認された。

I層からⅢ層の間には指標テフラである浅間A軽石（As-A : 1783年降下）、浅間B軽石（As-B : 1108年降下）が確認される。しかし、両テフラとも後世の耕作などにより除去されており、調査区内に部分的に確認されるにとどまる。

IV層・X層は泥流層で、I層には浅間板鼻褐色軽石群（As-BP）・浅間大窪沢第1軽石（As-Ok1）・浅間板鼻黄色軽石（As-YP）、I層には浅間板鼻褐色軽石群（As-BP）・浅間板鼻黄色軽石（As-YP）・浅間大窪沢第1軽石（As-Ok1）・浅間大窪沢第2軽石（As-Ok2）などが確認されている。詳細は『古屋地区遺跡群』を参照されたい。



第4図 基本層序柱状図

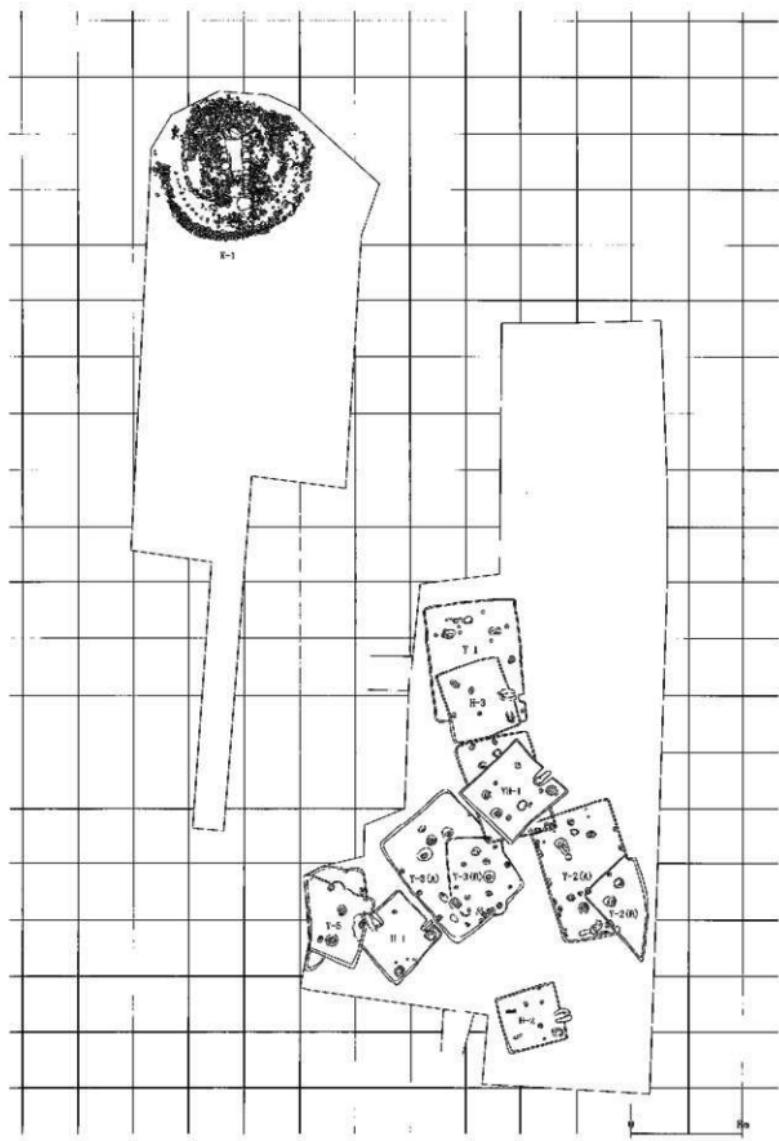
V 遺跡概要

高橋IV遺跡は、八咫川が九十九川に注ぎ込む流末の舌状微高地に位置している。この舌状微高地は黒色土をはさむ2枚の泥流層の堆積で形成されていることが確認されており、八咫川の河川氾濫によるものと思われる。八咫川は松井田町上山名付近の丘陵に源を発し、九十九川の中位段丘面北側を深く谷を刻みながら流下し、占屋地区付近では下位段丘面を削り九十九川に合流している。

この微高地は、平成11年度から平成15年度にかけて、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋II遺跡、高橋III遺跡）の調査が行われており、高橋IV遺跡も古屋地区遺跡群の一部を構成する遺跡である。

『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋II遺跡、高橋III遺跡）では、弥生時代の住居址69軒、4世紀後半の住居址5軒、5世紀後半に住居址37軒、6世紀前半の住居址17軒、8世紀の住居址1軒、不明の住居址1軒、古墳8基、配石遺構1基、竪穴状遺構1基、掘立柱建物址1棟、溝2条が検出されている。

高橋IV遺跡からは、弥生時代の住居址7軒、5世紀後半の住居址3軒、6世紀前半の住居址1軒、古墳1基が確認された。



第5図 高橋IV遺跡全体図

VI 遺構と遺物 (第6図～第34図)

弥生時代

弥生時代の住居は樽式期のもので、7軒が検出された。

住居址は『古屋地区遺跡群』(高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡)と同様に、長軸が8m以上の大形のもの、長軸が7m前後の中型のもの、長軸が5m～6mの小型のものに分けることが出来る。住居址内の柱穴配置などを見ると、主柱穴は4本で北よりの主柱穴の間に炉を設置、炉の延長線上壁際に柱穴1本を持ち、それと対面側の壁際に2本～4本の柱穴が確認される、と言った構成が基本型となっている。また大型の住居址の中には、壁際に小さめな柱穴が規則的に配される例も見られる。

5世紀後半

5世紀後半の住居址は3軒検出された(YH-1・H-1・H-2)。

平面形態は正方形で、『古屋地区遺跡群』(高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡)の分類基準では小型(長軸が4m～5m)に分類される。

主柱穴は4本を基本とする様であるが、明確なものが確認出来ない遺構も多くあり、住居址堀込みの外側を含め、住居構造を考える必要があると思われる。

竈の位置を見ると、住居東壁中央から南寄りに設置されているものが多いが、H-1号住は、住居東壁南寄りと住居北壁西寄り2カ所に確認された。両竈の新旧関係は明確に確認することはできなかった。

6世紀前半

6世紀前半の住居址は1軒検出された(H-3)。

平面形態はほぼ正方形で、長軸・短軸が5m前後を計る。

主柱穴は、5世紀後半の住居址同様4本を基本とすると思われるが、明確には確認出来なかつた。竈は住居東壁中央に設置されている。

古墳

K-1号墳 (第15・16図)

(1) 墳丘及び外部施設

本墳は墳丘上部と基壇面北側からが削平されている状態であったが、残存部の状態は良好であった。周囲は確認できなかつた。基壇面の立ち上がり部分には、80cm～120cmの高さで葺き石が残存していた。特に南面から西面にかけて良好な状態で検出された。基壇面南半分では、円筒埴輪列が約90cm間隔で確認された。円筒埴輪上部は攪乱等により欠損が著しいが、残存部の依頼状態は良好であった。

古墳の規模は、基壇面の直径で約21mの円墳と推定される。

(2) 主体部

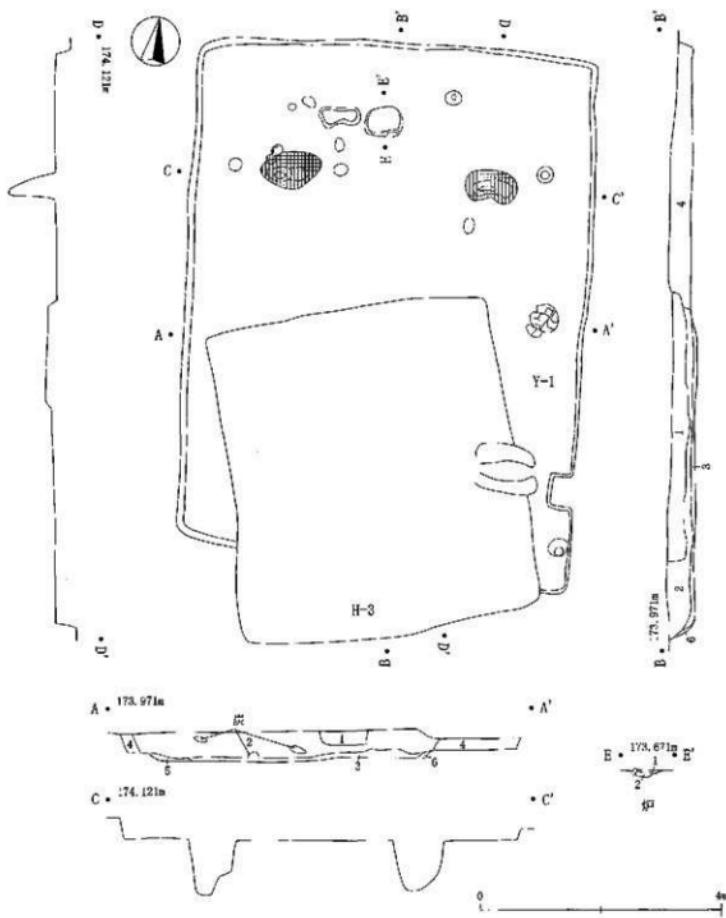
主体部は上面が削平されていたが、埋葬主体部は自然乱石積みの無袖型横穴式石室で、南に開口する。羨道部は長さ約4m、幅約1mで主軸方向はN-1°-Eを計る。羨道と玄室の境は框石で区画され、框石から奥壁まで約2m50cm、幅約1mを計る。石室の構成材はいずれの石材も安山岩で、玄室奥壁には横長のものが使用されている。

(3) 遺物

基壇面上の円筒埴輪列のほか、玄室内で直刀2点が出土した。

円筒埴輪列は基壇面南半分から確認された。北側については擾乱により削平されたものと思われる。各円筒埴輪は1段目が埋設される状態で、約90cmの間隔を持って設置されている。

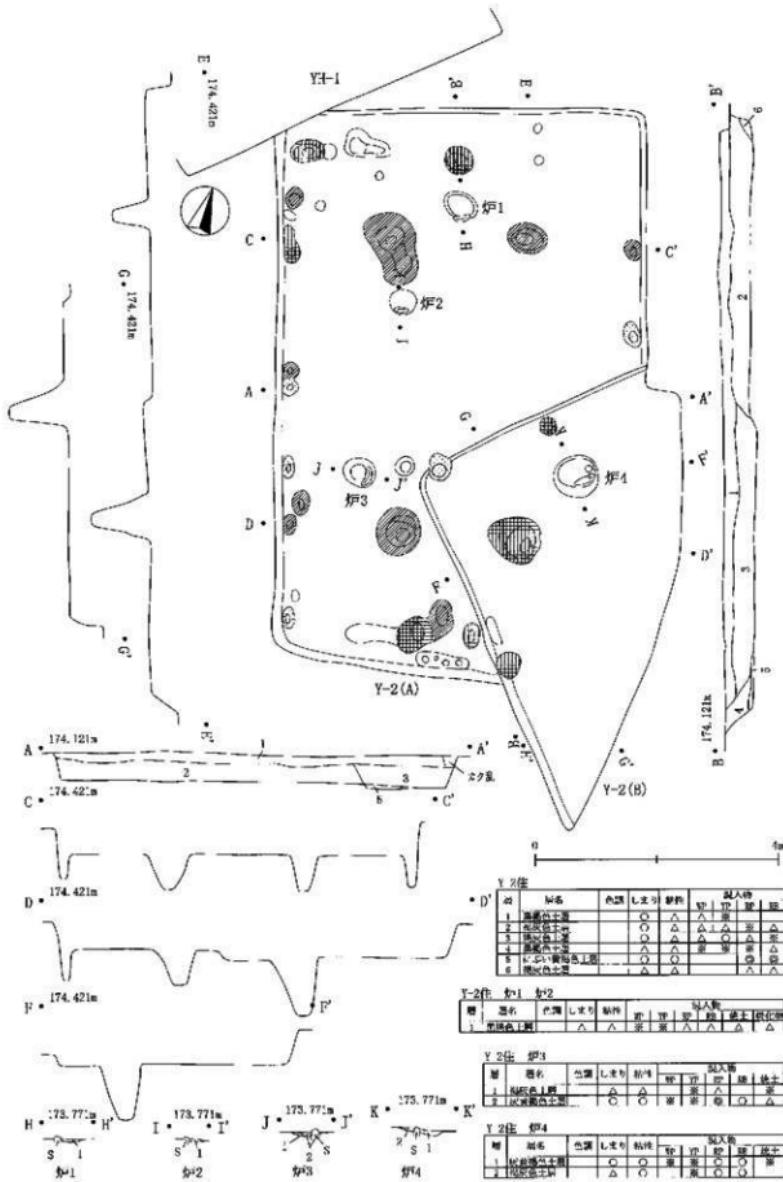
直刀はいずれも残りが良く、玄室内南西隅で2点重なって出土した。玄室内からの出土は直刀2点のみで、鉄製品や玉類などは検出されなかった。



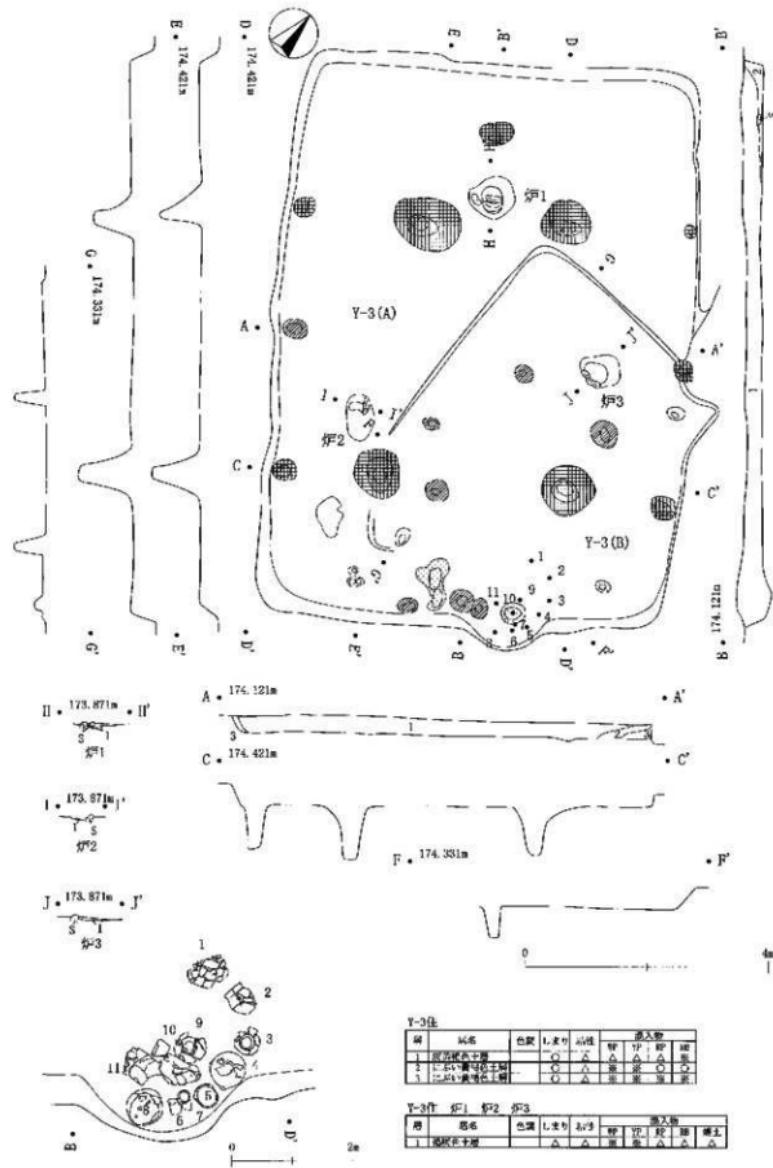
Y-1住居									
層	層名	色調	しまり	特徴	測入値	地質	測入値	地質	測入値
1	黒褐色の上層	-	-	-	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △
2	黒褐色の中層	-	-	-	○ ○ ○ ○ ○ ○	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △
3	黒褐色の下層	223	○ ○ ○ ○ ○ ○	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △
4	暗褐色の上層	224	○ ○ ○ ○ ○ ○	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △
5	暗褐色の中層	-	-	-	○ ○ ○ ○ ○ ○	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △
6	暗褐色の下層	-	-	-	○ ○ ○ ○ ○ ○	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △

Y-1住居									
層	層名	色調	しまり	特徴	測入値	地質	測入値	地質	測入値
1	黒褐色の上層	-	-	-	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △
2	黒褐色の中層	-	-	-	○ ○ ○ ○ ○ ○	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △
3	黒褐色の下層	223	○ ○ ○ ○ ○ ○	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △
4	暗褐色の上層	224	○ ○ ○ ○ ○ ○	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △
5	暗褐色の中層	-	-	-	○ ○ ○ ○ ○ ○	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △
6	暗褐色の下層	-	-	-	○ ○ ○ ○ ○ ○	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △	△ △ △ △ △ △

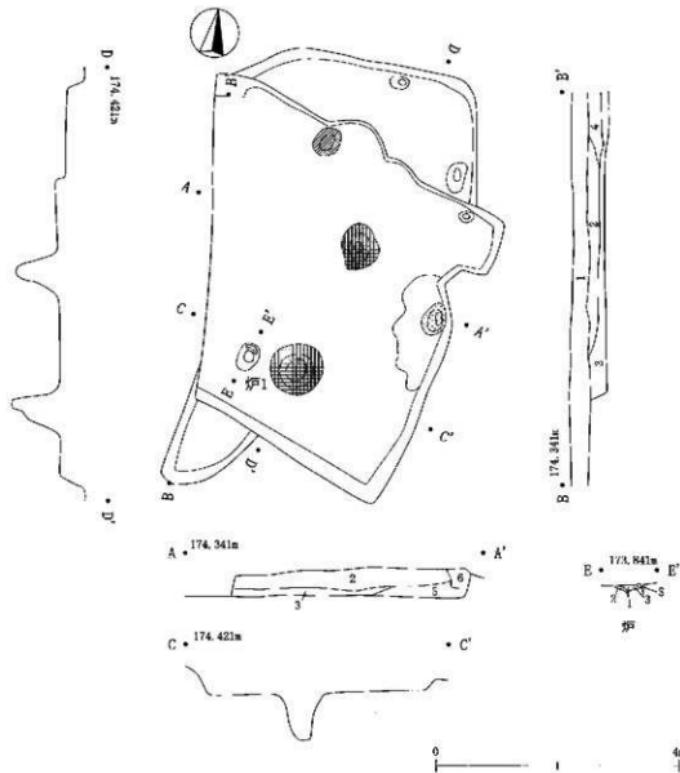
第6図 Y-1号住居址実測図



第7図 Y-2(A)・(B)号住居址実測図

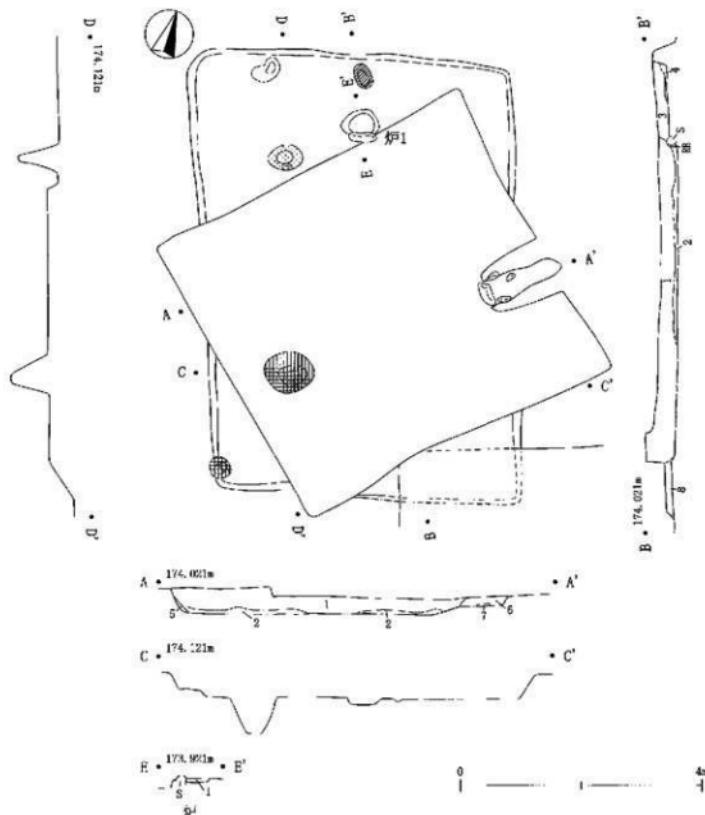


第8図 Y-3 (A)・(B)号钻孔大剖面



T-5住 炙		进入物								
層	用物	色調	しまり	粒度	W	T	R	粒	粒度	炭化物
1	灰黑色帶土褐色	○	△	深	深	△	△	深	深	深
2	灰褐色帶土褐色	○	○	深	深	○	○	深	深	深
3	灰褐色帶土褐色	○	○	深	深	○	○	深	深	深

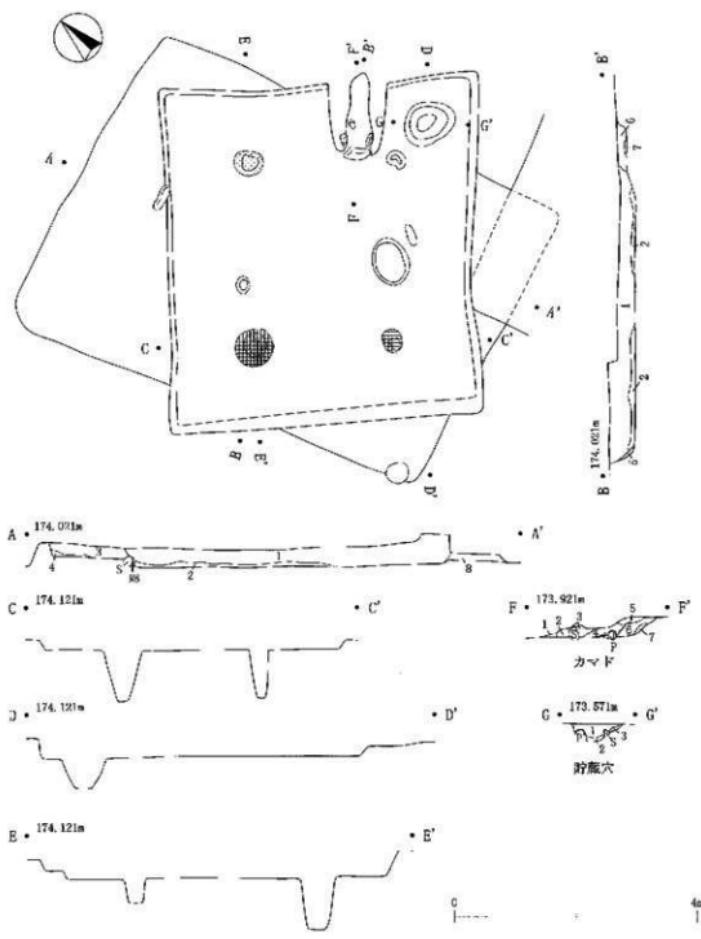
第9回 Y-5号住居址実測図

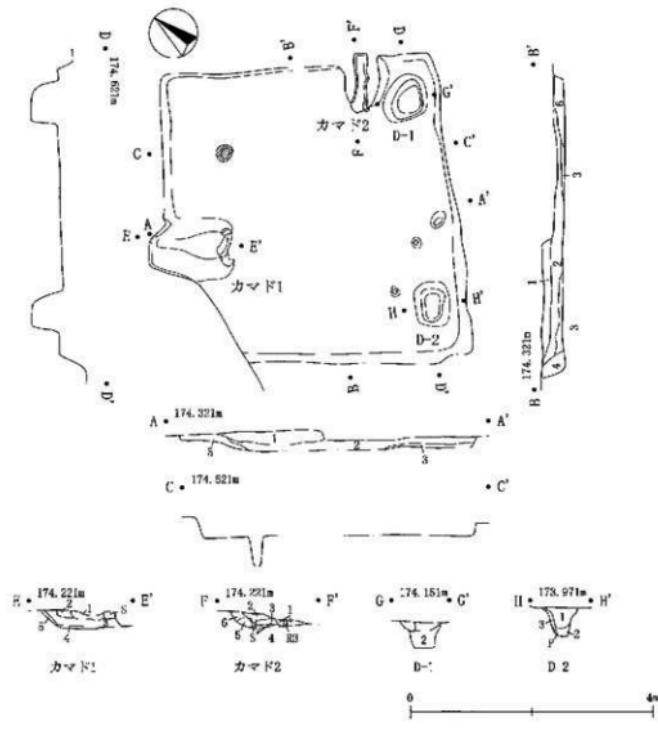


番	地名	色	しまり	松土	層八面					
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
1	褐色化土層	○	△	△	○	△	△	○	△	○
2	褐色化土層	○	△	△	○	△	△	○	△	○
3	褐色化土層	△	△	△	△	△	△	△	△	△
4	褐色化土層	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	褐色化土層	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	褐色化土層	○	△	△	○	△	△	○	△	○
7	褐色化土層	△	△	△	△	△	△	△	△	△
8	褐色化土層	○	△	△	○	△	△	○	△	○

番	地名	色	層八面					
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
1	褐色化土層	△	△	△	△	△	△	△

第10図 YH-1 (Y住) 母件居址実測図





番	器名	色調	しまり	粒性	測入面				
					甲	乙	丙	丁	戊
1	褐色色土器	○	△	△	△	△	△	△	△
2	黒褐色色土器	○	△	△	△	△	△	△	△
3	灰褐色色土器	○	△	△	△	△	△	△	△
4	褐色色土器	△	○	△	○	○	○	○	○
5	灰褐色色土器	○	○	△	○	○	○	○	○

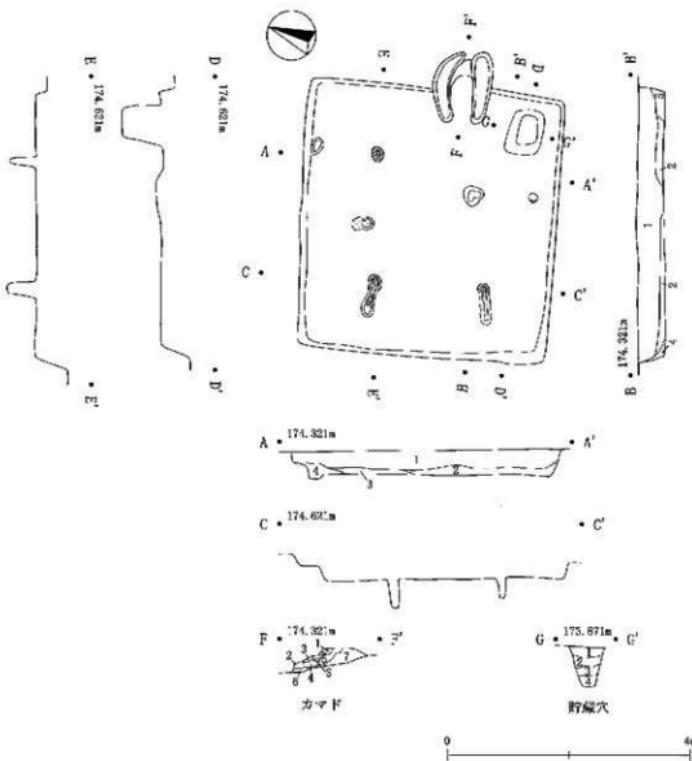
番	器名	色調	しまり	粒性	測入面				
					甲	乙	丙	丁	戊
1	褐色色土器	△	△	△	△	△	△	△	△
2	黒褐色色土器	△	△	△	△	△	△	△	△
3	灰褐色色土器	△	△	△	△	△	△	△	△
4	褐色色土器	○	○	△	○	○	○	○	○
5	灰褐色色土器	○	○	△	○	○	○	○	○

H-1住 カマ F1									
番	器名	色調	しまり	粒性	甲	乙	丙	丁	戊
1	褐色色土器	○	△	△	△	△	△	△	△
2	黒褐色色土器	○	△	△	△	△	△	△	△
3	灰褐色色土器	○	△	△	△	△	△	△	△
4	褐色色土器	△	○	△	○	○	○	○	○
5	灰褐色色土器	△	○	△	○	○	○	○	○

番	器名	色調	しまり	粒性	測入面				
					甲	乙	丙	丁	戊
1	褐色色土器	○	△	△	△	△	△	△	△
2	黒褐色色土器	○	△	△	△	△	△	△	△

番	器名	色調	しまり	粒性	測入面				
					甲	乙	丙	丁	戊
1	褐色色土器	○	△	△	△	△	△	△	△
2	黒褐色色土器	○	△	△	△	△	△	△	△

第12図 H-1号住居址実測図

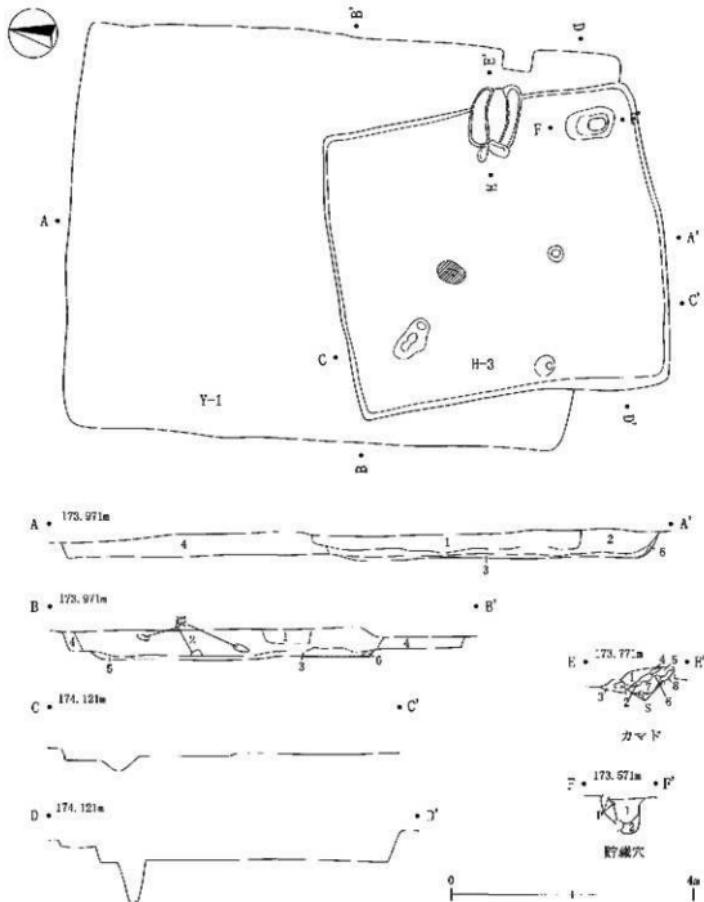


II-2住		名前	色調	しまさり	粒性	盛入物						
量	容積					石	瓦	瓦	瓦	土	砂	骨粉
1	赤褐色土質	○	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△
2	赤褐色土質	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
3	赤褐色土質	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
4	赤褐色土質	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
5	赤褐色土質	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

II-2住 カマド		名前	色調	しまさり	粒性	盛入物						
量	容積					石	瓦	瓦	瓦	土	砂	骨粉
1	赤い赤褐色土質	○	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△
2	赤褐色土質	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
3	赤い赤褐色土質	○	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△
4	赤い赤褐色土質	○	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△
5	赤褐色土質	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6	赤褐色土質	○	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△
7	赤褐色土質	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

II-2住 貯藏穴		名前	色調	しまさり	粒性	盛入物						
量	容積					石	瓦	瓦	瓦	土	砂	骨粉
1	赤褐色土質	○	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△
2	赤褐色土質	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
3	赤褐色土質	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△
4	赤褐色土質	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△

第13図 H-2号住居址測定図

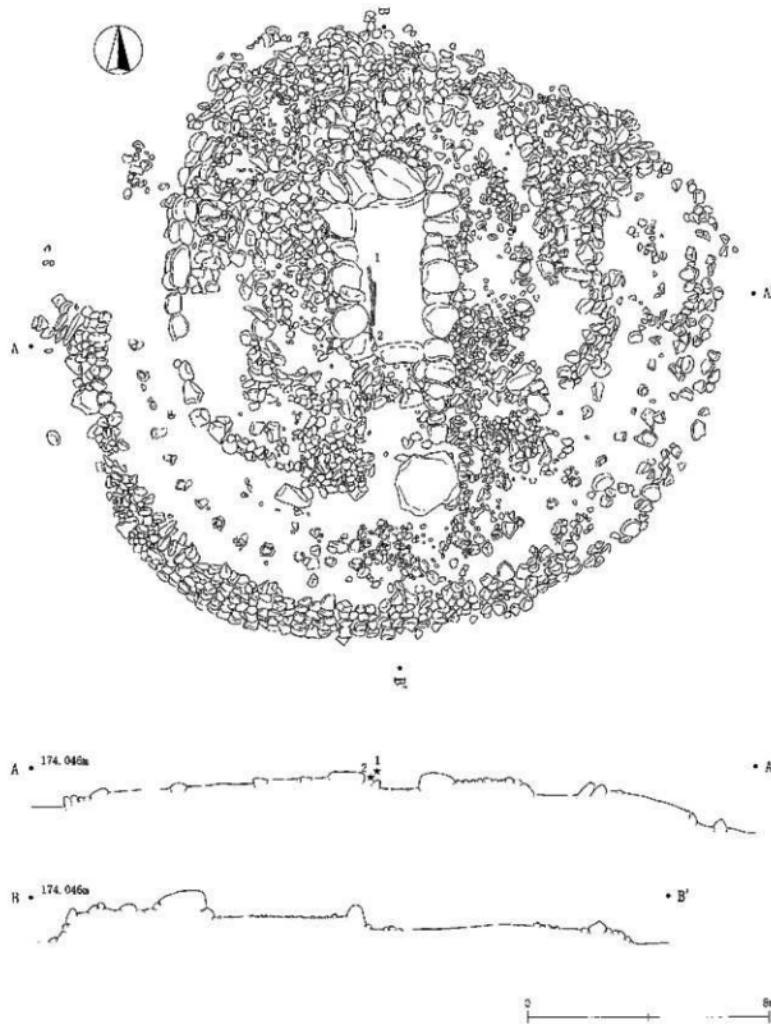


H-3住	M名	色調	しまり	縫合				縫入物	縫合	縫入物
				W	P	T	H			
1. 青紫色土器	△	△	C	△	△	△	△	人頭	△	人頭
2. 青紫色土器	△	△	△	△	△	△	△	人頭	△	人頭
3. 青紫色土器	△△△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
4. 青紫色土器	△△△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
5. 青紫色土器上部	△△△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6. 青紫色土器	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△

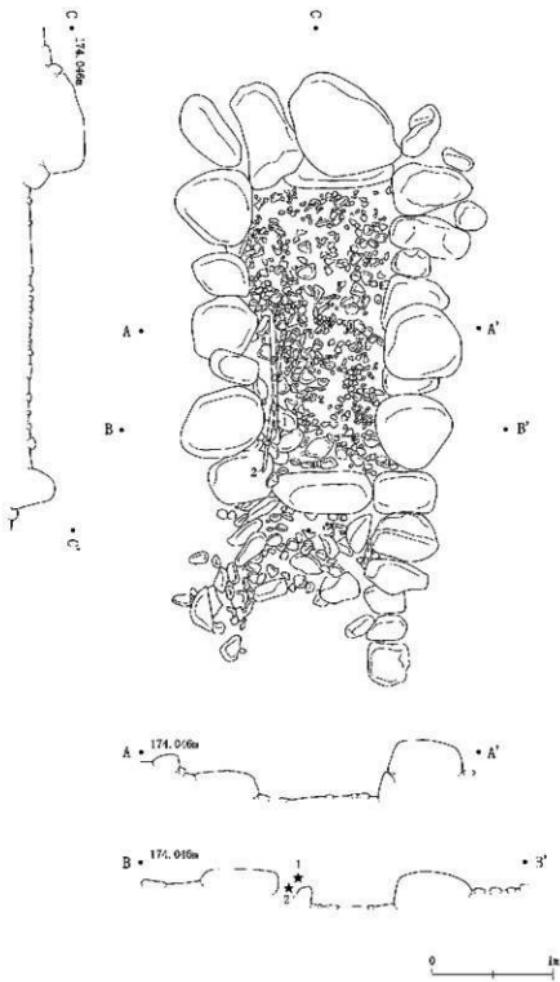
H-3住 灰窓穴	M名	色調	しまり	縫合				縫入物	縫合	縫入物
				W	P	T	H			
1. 青紫色土器	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
2. 青紫色土器	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△

H-3住 カーボ	M名	色調	しまり	縫合				縫入物	縫合	縫入物
				W	P	T	H			
1. 青紫色土器	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
2. 青紫色土器	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
3. 青紫色土器	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
4. 青紫色土器	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
5. 青紫色土器	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6. 青紫色土器	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△

第14図 H-3号住居址大測図



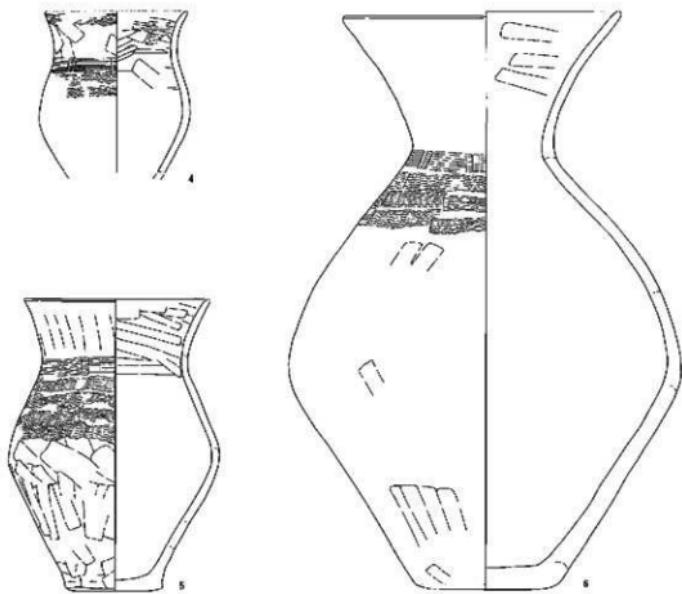
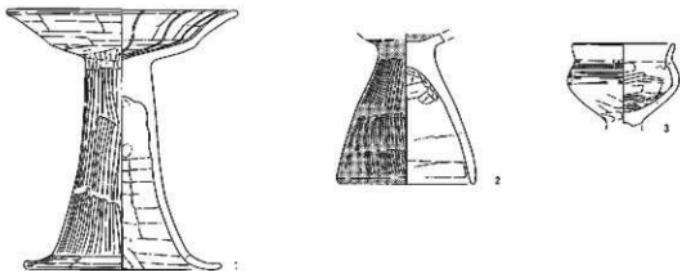
第15図 K-1号填埋坑測図



第16图 K-1号墓右室实测图

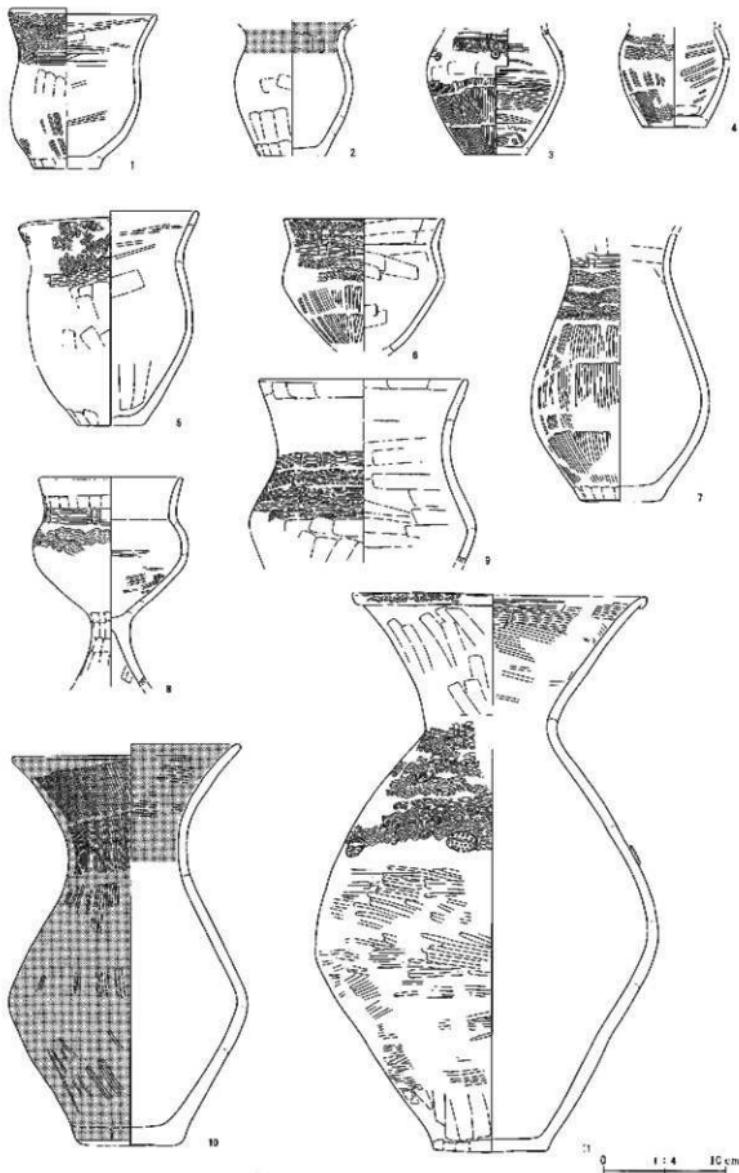
油井名	平面形狀	長軸m	短軸m	深古巖火cm	深古巖小cm	主軸方向	主井穴	射、鑽位置		射、鑽規範		射、鑽規範	
								長軸cm	短軸cm	長軸cm	短軸cm	長軸cm	短軸cm
V-1 (V柱)	縱長方形	8.66	6.40	36	16	N-6°-W	2	北側主井穴間	-	36	48	-	-
V-1 (V柱)	正方形	5.28	4.80	45	16	N-72°-E	-	北鑽中央	-	-	-	-	-
V-2 (A柱)	縱長方形	9.12	5.92	55	32	N-18°-W	4	炳1/北側主井穴間 炳2/北西主井穴間 炳3/南西主井穴間	36	48	40	48	-
V-2 (B柱)	縱長方形	-6.05	-4.40	36	9	K-40°-W	1	西主井穴間	-	72	64	-	-
V-3 (A柱)	縱長方形	9.04	6.72	46	22	K-40°-W	4	炳1/北西主井穴間 炳2/南上北井穴間	72	64	72	40	-
V-3 (B柱)	縱長方形	4.00	-4.00	21	4	K-3°-W	4	北側主井穴間	-	64	64	-	-
V-4	正方形	4.48	4.24	45	17	N-73°-E	3	東鑽南面D	-	-	-	80	56
V-5	縱長方形	-5.20	4.80	51	15	N-69°-W	2	南主井穴間	-	48	32	-	-
VH-1 (V柱)	縱長方形	7.04	5.12	32	14	N-19°-W	1	北西主井穴間	-	36	56	-	-
VH-1 (V柱)	正方形	5.38	4.90	44	13	N-41°-E	4	北東鑽東面D	-	-	88	64	-
H-1	正方形	4.80	4.64	40	19	A/N-48°-E	-A/北東鑽東面D B/N-40°-W	-A/北東鑽東面D B/北西鑽西面D	-	72	72	72	56
H-1		11.60	10.40			K-1-B							
H-1 (石室)		2.32	1.10		0.92								

第1表 平面射孔鑽探表

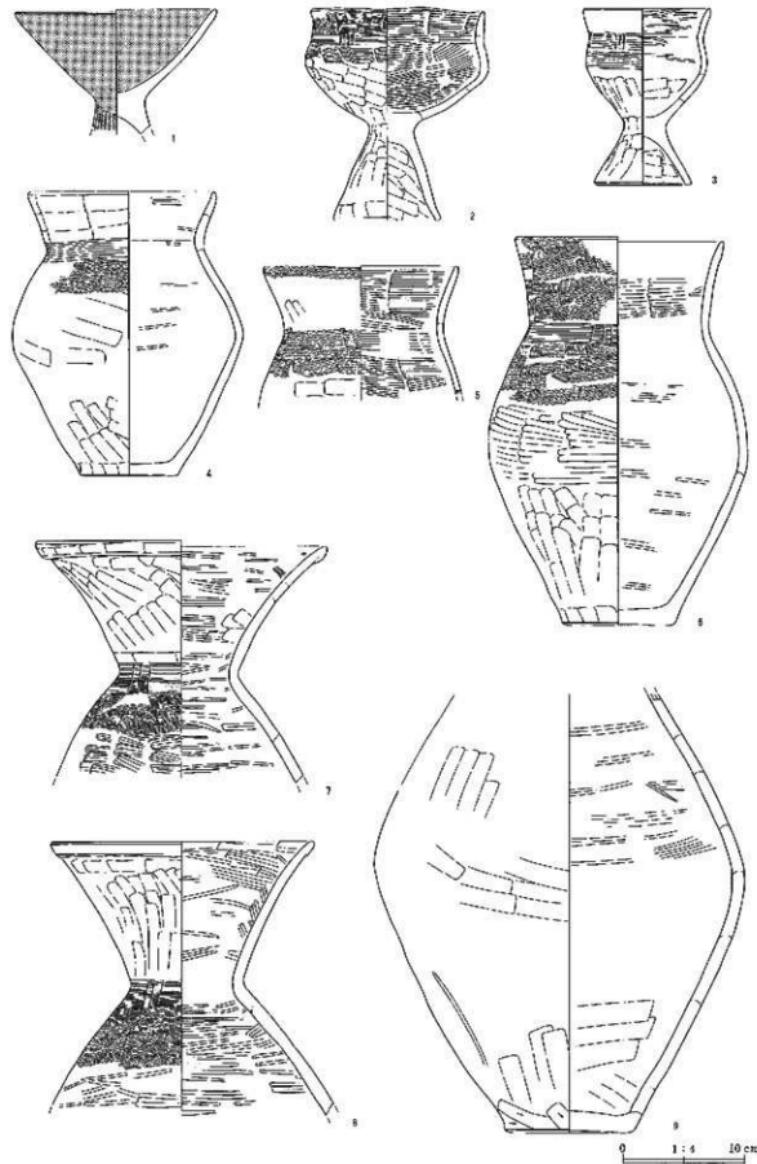


第17図 Y-1号住居址出土の遺物

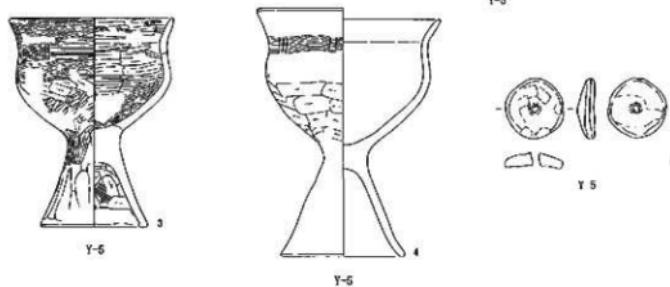
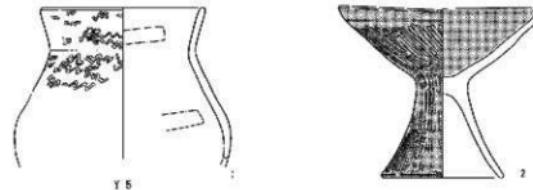
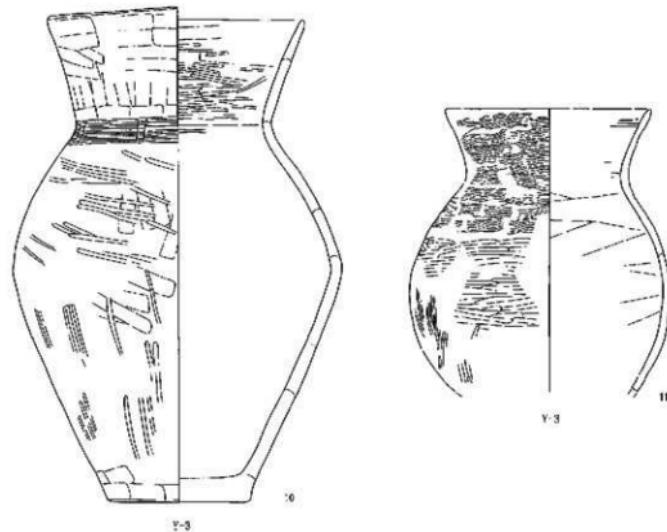
1 : 4 10cm



第18図 Y-2号住居址出土の遺物

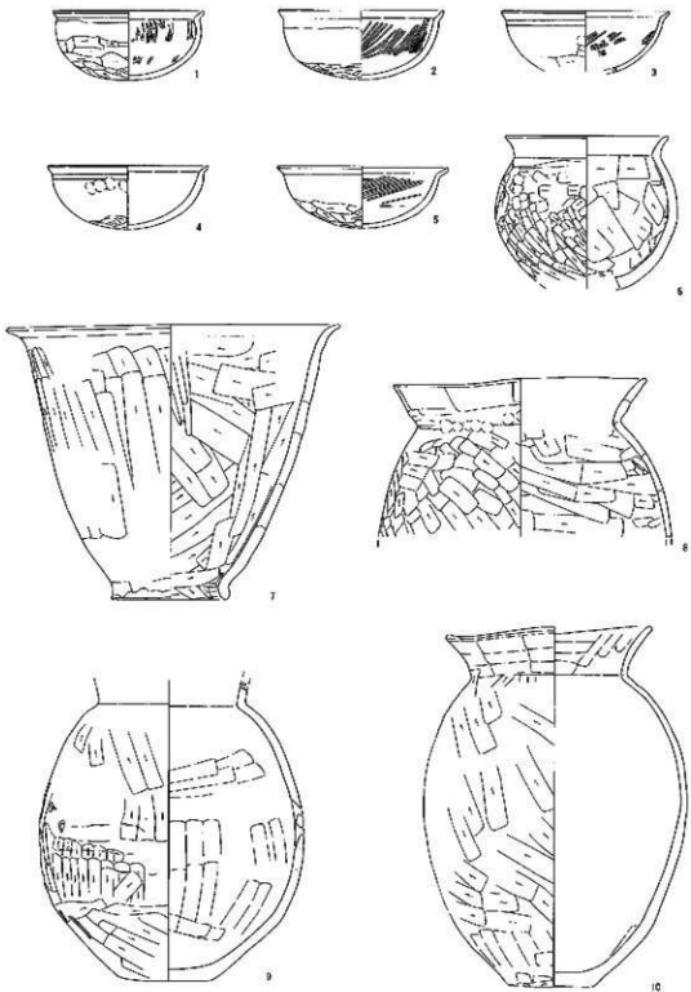


第19図 Y-3号住居址出土の遺物



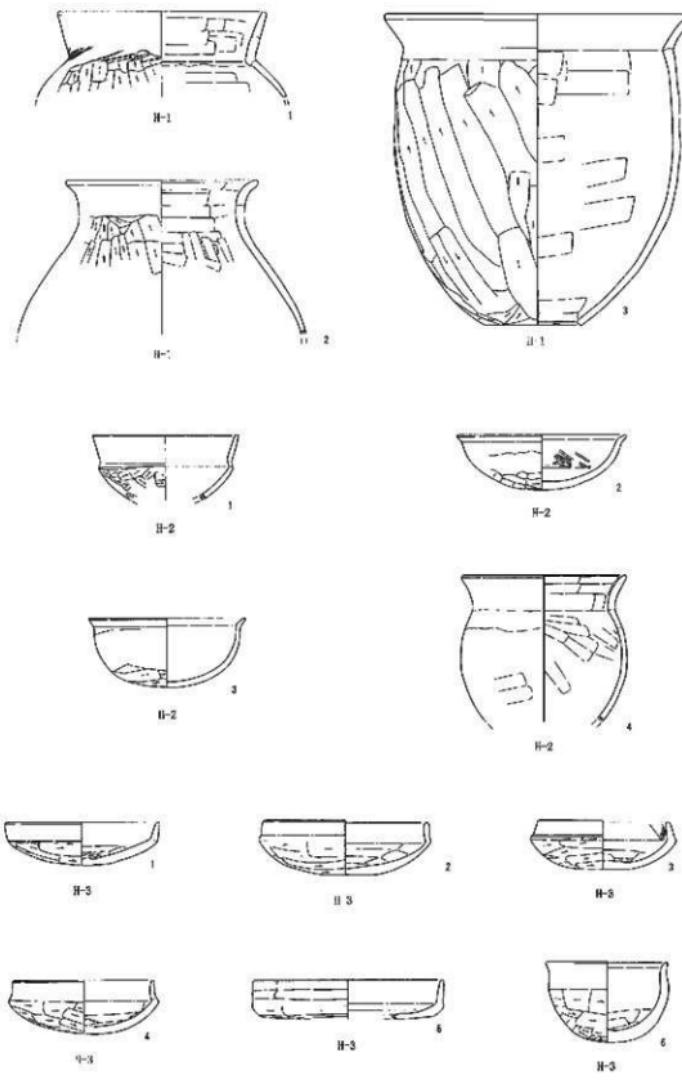
0 1 : 4 10 cm

第20図 Y-3号・Y-5号住居址出土の遺物



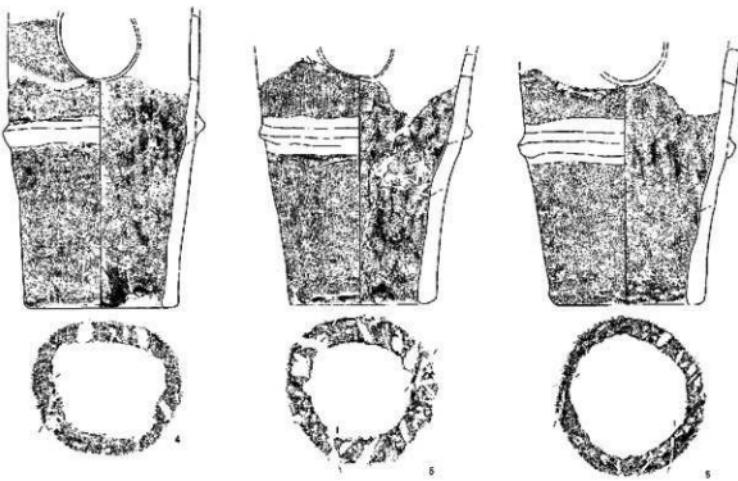
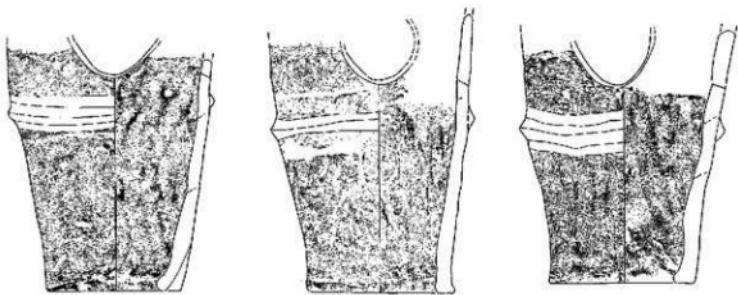
第21図 YH-1号住居址出土の遺物

0 1:4 10 cm



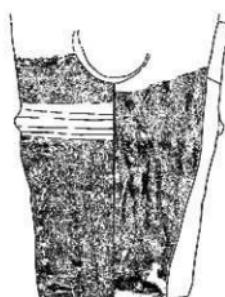
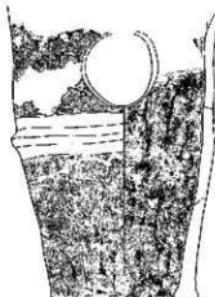
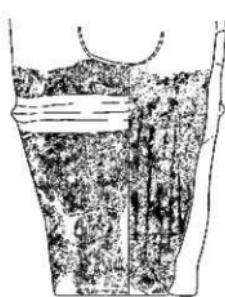
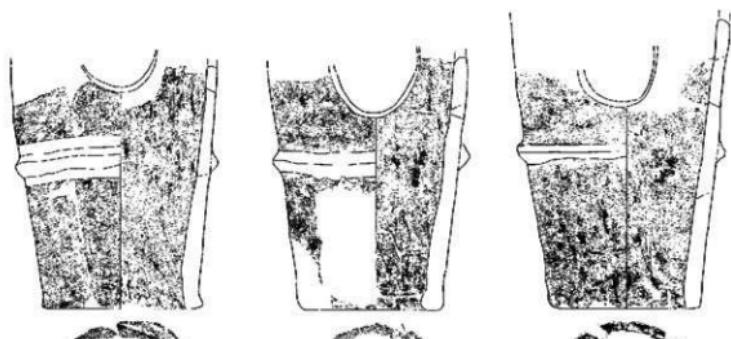
0 1 : 4 10 cm

第22図 H-1号・H-2号・H-3号住居址出土の遺物



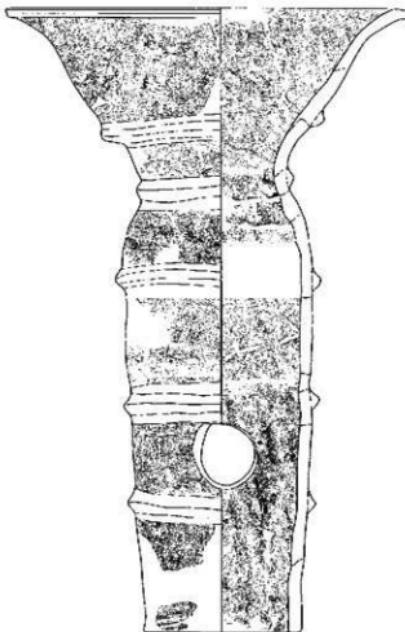
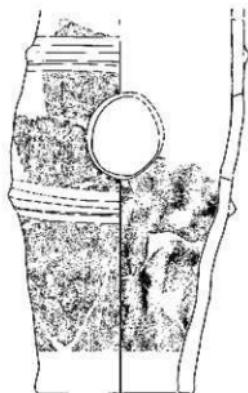
第23図 K-1号墳 墳輪1

0 1:4 10 cm



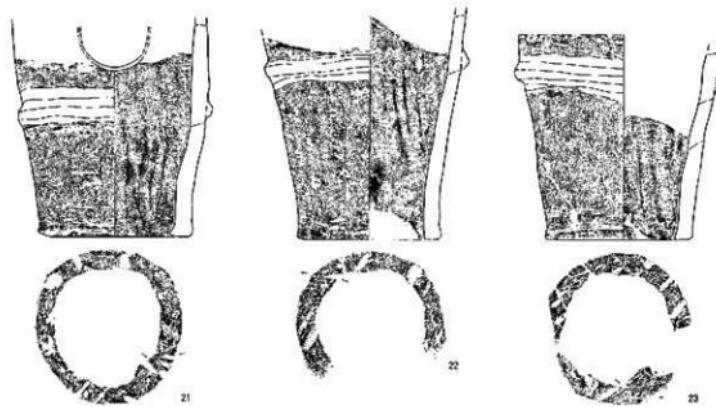
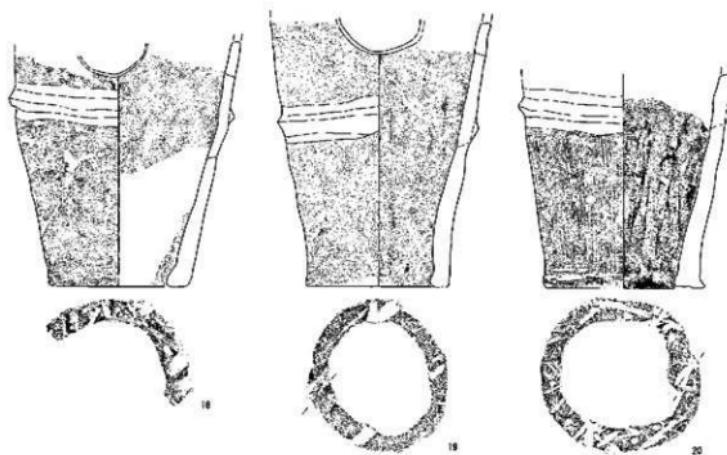
第24図 K-1号墳 塗輪2

0 1 : 4 10 cm



0 1 : 4 10 cm

第25圖 K-1號墳 墓繪3

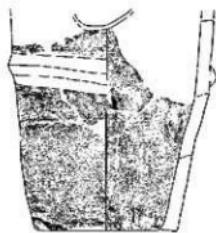
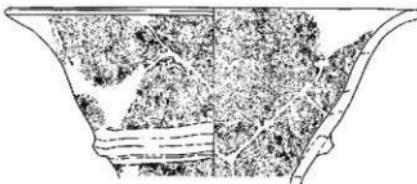


0 1:4 10 cm

第26図 K 1号墳 墓輪4



24



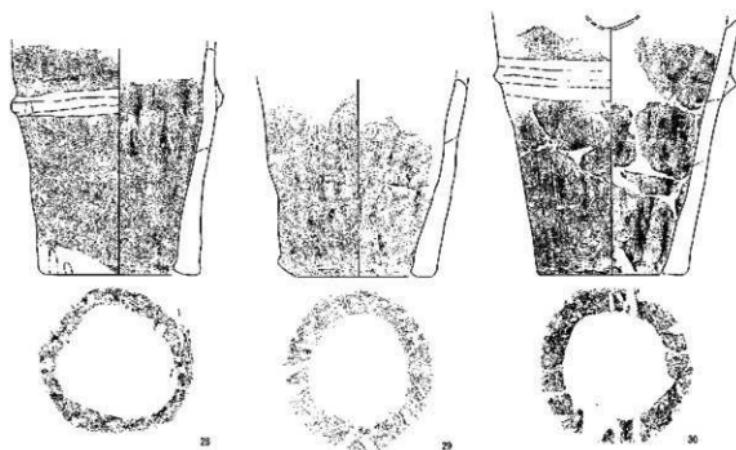
26



27

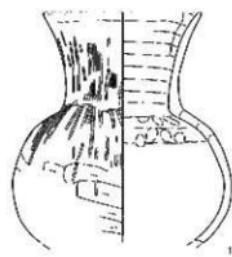
0 1:4 10 cm

第27図 K-1号墳 墳輪5



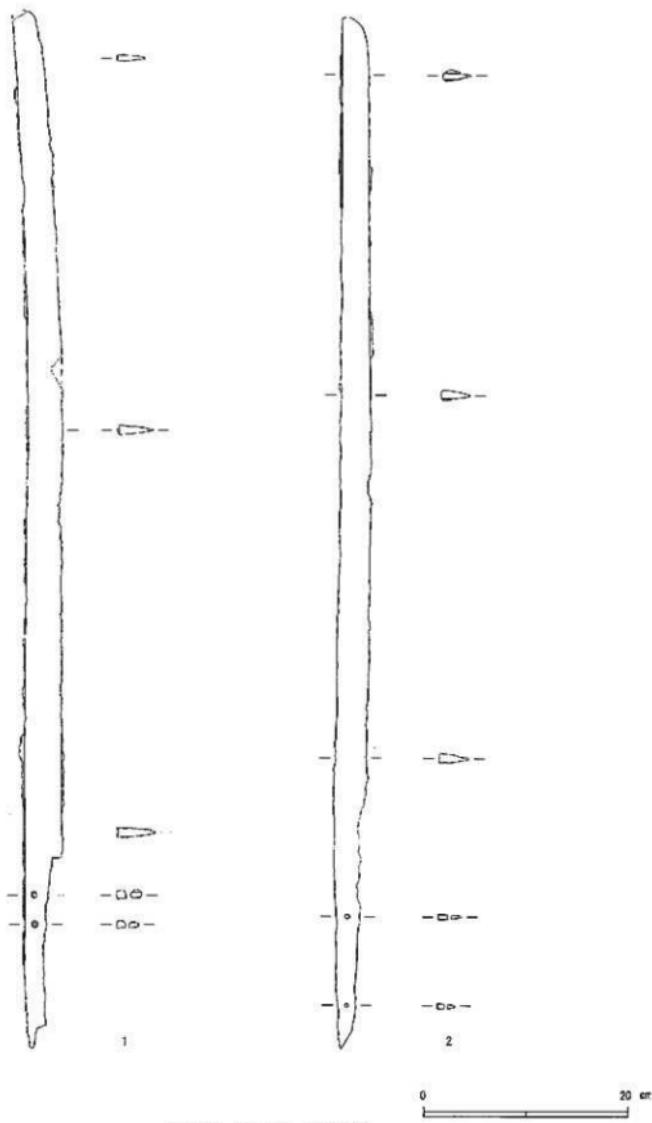
第28図 K-1号墳 砂輪6

0 1:4 10cm



第29図 K-1号墳 土器

0 1:4 10cm



第30圖 K-1号墓 刀尖測図

測定	器種	出土位置	法 量	器形・技術等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	
1	弥生土器 高环	Y-1住 14区3層	口 底 高	19.0 16.3 21.3	外面：口縁部横方向ナガヘ 壁上部横方向ヘラナダ 内面：耳下部横方向～接合部横・縫合部横方向ヘラケズリ 脚部横方向ヘラミガキ 脚部横方向ヘラケズリ リ後脚方向ヘナダ 内面：耳下部横方向ヘラナダ後ヘラミガキを抜 製状に日本語文（絵文） 脚上部横ナダ 脚下部横方向ヘラナダ 脚部横方向ヘラナダ後 横方向ヘラナダ	胎 砂粒を含む 色 羽赤褐色 焼 良	ほぼ完形
2	弥生土器 高环	Y-1住 12区2層	口 底 高	11.4 (12.3)	外面：耳下部横方向ヘラミガキ 接合部横方 向ナダ 脚部横方向ヘラミガキ 脚部横方向 内面：耳下部横ヘラミガキ・赤彩 脚上部横方 向ヘラケズリ 脚中部横方向ナダ 脚下部横 方向ヘナダ	胎 砂粒を含む 色 浅黄褐色 焼 良	脚部完存
3	弥生土器 台付甕	Y-1住 6区3層	口 底 高	8.4 (8.5)	外面：口縁部横方向ナダ 脚部2連止縫状文 脚上部横文 内面：口縫部横方向ナダ 脚部横方向ヘラナ デ後脚横方向ヘラミガキ	胎 砂粒を含む 色 灰青褐色 焼 良	口縫部～脚部1/2
4	弥生土器 甕	Y-1住 12区2層	口 底 高	11.8 (13.2)	外面：口辺部波状文 口縫部横方向ヘナダ 脚部2連止縫状文 脚上部波状文2段 脚下 部磨滅により不明 内面：口縫部～脚上部横方向ヘラナダ後脚方 向ヘラミガキ 脚下部横文により不明	胎 砂粒を多量含む 色 淡灰 焼 良	口縫部～脚下部は ば完存
5	弥生土器 甕	Y-1住 12区2層	口 底 高	15.3 8.1 23.9	外面：3連横横方向ナダ 口縫部横方向ヘラ ナダ 脚部2連止縫状文 脚上部波状文4段 脚中部～脚下部横 ・縫合部横方向ヘラナダ 底部 横・横方向ヘラケズリ 内面：口縫部～頸部横・斜方横ヘラナダ 脚部～底部横横方向ナダと思われる	胎 砂粒を含む 色 にぶい黄褐色 焼 良	ほぼ完形
6	弥生土器 甕	Y-1住 R-II	口 底 高	22.9 11.8 47.5	外面：口縫部磨滅により不明 脚部3連止縫状文 脚上部波状文3段 脚中部～脚下部横 部磨滅により不明 内面：脚部横方向ヘラナダ	胎 砂粒を含む 色 浅黄褐色 焼 良	ほぼ完形 磨滅が激しく調整 は不明瞭
1	弥生土器 小型甕	Y-2住 14区1層 16区3層	口 底 高	12.1 5.4 13.1	外面：口縫部波状文3段 脚部2連止縫状文 脚上部横方向ヘラナダ 脚下部横方向ヘラミ ガキ 底部横方向ヘラナダ 内面：口縫部～頸部横方向ヘラケズリ後脚方 向ヘラミガキ 脚上部横方向ヘラミガキ 脚下部横方向ヘラナダ	胎 砂粒を含む 色 にぶい黄褐色 焼 良	口縫部～脚上部・ 底部は光存 脚下部1/5 歪み有り
2	弥生土器 小型甕	Y-2住 10区3層	口 底 高	— 5.4 (10.9)	外面：頸部横方向ナダ 脚上部横方向ヘラナ ダ 脚下部横方向ヘラナダ 無形～脚下部赤影 形と思われる 内面：脚部横方向ヘラナダ 脚上部横方向ヘラケズリ 脚下部横方向ヘラナダ	胎 砂粒を多量含む 色 羽赤褐色 焼 良	脚部～底部光存
3	弥生土器 小型甕	Y-2住 10区3層	口 底 高	— 5.2 (9.8)	外面：脚部2連止縫状文 脚上部波状文の下 に円形波文6個點付 脚中部横方向ヘラナダ 脚下部横方向ヘラミガキ 内面：脚部横方向ヘラケズリ 脚部横方向ヘ ラミガキ	胎 砂粒を含む 色 にぶい黄褐色 焼 良	脚部～脚中部2/3 脚上部～底部光存 円形浮出は中央に 剥光板を施す
4	弥生土器 小型甕	Y-2住 R-II	口 底 高	— 5.2 (8.3)	外面：脚上部波状文2段 脚下部横方向ヘラ ミガキ 内面：脚上部横方向ヘラミガキ 脚下部横方 向ヘラナダ 内面：脚下部横方向ヘラナダ	胎 砂粒を含む 色 灰青褐色 焼 良	脚上部～脚中部 1/2 脚下部～底部光存
5	弥生土器 甕	Y-2住 10区3層	口 底 高	14.8 5.4 17.5	外面：口縫部波状文3段 脚部單止縫状文 脚部横・脚方横ヘラナダ 内面：口縫部横方向ヘラミガキ 脚上部横方 向ヘラナダ 脚中部磨滅により不明 脚下部 横方向ヘラナダ	胎 砂粒多量小石含む 色 にぶい黄褐色 焼 良	口縫部～脚部3/4 脚部1/2 底部光存 歪み有り

第2表 出土土器観察表(1)

通数	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	現存状態・備考
6	弥生土器 台付型	Y-2住 10区3層	口 13.1 底 一 高 (10.8)	外面：口縁部波状文2段 前部3連止縫状文 胴上部波状文2段 脚下部縱方向へラミガキ 内面：口縁部へ脚下部横方向へラナダ	胎 砂粒を含む 色 明赤褐色 焼 良	口縫部～脚部ほぼ 完存
7	弥生土器 壺	Y-2住 10区3層	口 一 底 6.5 高 (21.7)	外腹：口縫部横方向へラナダ 横部2連止縫 状文 脇上部波状文3段 脚中筋から脚下部 横方向へシミガキ 縦部縦方向へラナダ 内面：口縫部横方向へラナダ 縦部横方向へ ラナダ 制縫横方向へラナダ	胎 砂粒を含む 色 明黄褐色 焼 良	口縫下部～脚上 部 底部光存 脚中筋～脚下部 3/4
8	弥生土器 台付壺	Y-2住 10区3層	口 11.8 底 一 高 (17.1)	外腹：口縫部横方向へラナダ 口縫部横方向へ ラナダ 横部2連止縫状文 脇上部波状文2段 脚下部縫縫により不規則 縦部横方向へラナダ 内面：口縫部横方向へラナダ 縦部横方向へラミ ガキ 台脚横方向へナギ部分にヘラケズリ	胎 砂粒を含む 色 明赤褐色 焼 良	口縫部～脚部1/2 台上部は完存
9	弥生土器 壺	Y-2住 11区3層	口 17.2 底 一 高 (15.0)	外面：口縫部横方向へラナダ 口縫部横方向 ラナダ 縦部横止縫状文 脇上部波状文6段 脚中筋へ横方向へラナダ 内面：口縫部横方向へラナダ 口縫部横方向 ラナダ 制縫横方向へラナダ	胎 砂粒を含む 色 灰黄褐色 焼 良	口縫部～脚中部 4/5
10	弥生土器 壺	Y-2住 2-1	口 18.8 底 8.8 高 32.8	外面：口縫部横方向へラナダ 口縫部～脚中筋縫 方向へシミガキ 脚下部斜方向へシミガキ 縦部横方向へラナダ 口縫部～底部底部縫 内面：口縫部横方向へラミガキ 縦部縫縫に より不明 制縫～底部横方向へナダ 口縫部～ 脚部赤影	胎 砂粒多量小仁含む 色 接黄褐色 焼 良	口縫部1/2 脚部～底部ほぼ完 存
11	弥生土器 壺	Y-2住 10区3層	口 24.2 底 9.4 高 45.9	外面：口縫部波状文 口縫部横方向へラナダ 縦部横方向へラナダ 3連止縫状文 脇上部 波状文8段もの下に筋円形浮文7筋貼付 脇 中部横方向へラミガキ 制縫～底部縫縫 内面：口縫部後横方向へシミガキ 脇部～底部 縫部が抜いたため不明瞭、ヘラナダ後横方向へ ラミガキと思われる	胎 砂粒を含む 色 明黄褐色 焼 良	ほぼ完形 折り返し口縫 縫円形浮紋は長輪 方向に寸法差を引き その外側に10個前 後の刺穴数を施す
1	弥生土器 高环	Y-3住 2区3層	口 16.6 底 一 高 (10.2)	外面：脚部縫縫により不明 脇上部縫縫方向へ シミガキ 脚部～脚上部赤影 内面：脚部縫縫により不明、赤影 脇上部ナダ	胎 砂粒を含む 色 灰黄褐色 焼 良	脚部4/5 脚上部完存
2	弥生土器 台付壺	Y-3住 No.6	口 14.3 底 8.8 高 17.4	外面：口縫部波状文2段 脇部小波止縫状文 脚上部波状文 脇下部縫縫方向へラナダ 台部 縫 縫方向へラナダ 縦部横方向へラナダ 内面：口縫部～脚上部横方向へラミガキ 脇 中部横方向へナダ 脇下部、台上部横方向 ナダ 台下部横方向へラナダ	胎 砂粒を含む 色 明赤褐色 焼 良	完形 内面のラナダは 工具痕が強くヘラ ミガキに近い
3	弥生土器 台付壺	Y-3住 No.7	口 10.5 底 一 高 14.4	外面：口縫部横方向へナダ 縫部3連止縫状文 脚上部波状文 脇下部縫縫方向へラナダ 台部 縫 縫方向へラナダ 内面：口縫部～脚上部横方向へラミガキ 脇 中部横方向へナダ 脇下部、台上部横方向 ナダ 台下部横方向へラナダ	胎 砂粒を含む 色 明赤褐色 焼 良	完形 外面のラナダは 工具痕が強くヘラ ミガキに近い
4	弥生土器 壺	Y-3住 No.2	口 15.5 底 8.0 高 23.2	外面：口縫部横方向へラナダ 第2部3連止縫 状文 脇上部波状文2段 脇中部～脚下部横 横、斜方へラナダ 底部横方向へラナダ 内面：口縫部～脚中部横方向へシミガキ 脇 下部横方向へラナダ	胎 砂粒を含む 色 明赤褐色 焼 良	ほぼ完形
5	弥生土器 壺	Y-3住 8区1層	口 16.0 底 一 高 (11.0)	外面：口縫部波状文 口縫部横方向へナダ部分 に斜方へラナダ 縫部～脚上部波状文3 段 脇中部横方向へラナダ 内面：口縫部～脚中部横方向へラミガキ 脇 下部横方向へラナダ	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	口縫部～脚中部 4/5
6	弥生土器 壺	Y-3住 No.11	口 17.1 底 0.2 高 31.8	外面：口縫部波状文6段 縫部3連止縫状文 脚上部波状文4段 脇中部横方向へラミガキ 脚下部横方向へラナダ 底部横方向へラナダ 内面：口縫部～脚下部横方向へラミガキ 脇 部へラナダ	胎 砂粒を含む 色 明赤褐色 焼 良	ほぼ完形

第3表 出土土器観察表(2)

通番	器種	出土位置	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
7	弥生土器 壺	Y-5住 No.5	口 34.0 底 19.8 高 (19.8)	外面：口辺部横方向へラナデ リ縫部斜・横 一方勾へラナデ 頸部3進止端状文2段 脚上 部被状文4段 脚中部横方向へラミガキ 内面：口端部～脚口部へシケズ後横方向へラ ミガキ	胎 砂粒小石を含む 色 にぶい黄褐色 焼 良	口縫部～脚上部は ほ完存 脚中部1/4 折り返し口縫
8	弥生土器 壺	Y-5住 No.9	口 21.7 底 22.0 高 (22.0)	外面：口辺部横方向ナデ 口縫部横・斜・縱 方向へラナデ 頸部3進止端状文2段 脚上 部被状文5段 脚中部横方向へラミガキ 内面：口辺部横方向へシケズ後横方向へラ ミガキ	胎 砂粒小石を含む 色 浅黄褐色 焼 良	口縫部～脚中部完 存 折り返し口縫
9	弥生土器 壺	Y-5住 No.8	口 一 底 10.7 高 (35.8)	外面：脚上部斜方向へラナデ 脚中部横方向 へラナデ 脚下部横方向へラナデ一部縱方向 へラミガキ 底部斜・横方向へラケズリ 内面：脚上部横方向へラミガキ 脚中部横方 向ナデ 脚下部横・斜方向へラナデ	胎 砂粒多量小石含む 色 黄褐色 焼 良	脚上部3/4 脚中部～底部はぼ 完存 外済は磨滅が激し く調査は不明瞭
10	弥生土器 壺	Y-5住 No.10	口 31.2 底 11.8 高 40.7	外面：口縫部横・斜方向へラナデ 口縫下 部斜・横方向へラナデ 頸部2進止端状文2 段 脚上部横方向へラナデ後横方向へラミガ キ 脚中部横方向へラナデ後横方向へラ ミガキ 脚下部横方向へラナデ 内面：口縫部横方向へラナデ後横方向へラミ ガキ 脚部～底部強度が弱いため不明瞭、ヘ ラナデ強度方向へラミガキと思われる	胎 砂粒を含む 色 にぶい褐色 焼 良	口縫部 は不明瞭
11	弥生土器 壺	Y-5住 No.1	口 17.0 底 33.1 高 (33.1)	外面：口縫部～脚上部被状文 脚中部以下へ ラミガキ 内面：口縫部磨滅により不明だがミガキか 脚部横方向へラナデ	胎 砂粒を含む 色 灰青褐色 焼 良	口縫部～脚部3/4
1	弥生土器 壺	Y-5住 No.5	口 13.6 底 一 高 (12.3)	外面：口縫部～脚上部被状工具による被状文 脚下部強度により不明 内面：磨滅により不明、口縫部～脚中部被方 向へラナデ	胎 砂粒を多量含む 色 にぶい青褐色 焼 良	口縫部～脚上部は ほ完存 脚中部1/3
2	弥生土器 高环	Y-5住 No.4	口 16.8 底 14.1 高 14.1	外面：口縫部横方向ナデ 脚部横方向へラミ ガキ 脚中部横方向へラミガキ 脚端部横方向 ナデ 口縫部～脚部赤影 内面：研磨磨滅により不明、赤影 脚部横方 向へラナデ	胎 砂粒多量小石含む 色 棕褐色 焼 良	1/2
3	(弥生土器 付付壺)	Y-5住 No.2	口 13.5 底 8.8 高 17.1	外面：口縫部被状文 頸部3進止端状文、脚 上部被状文 脚中部斜方向へラケズリ 脚 部被状方向へラミガキ 台上部被状方向へラミ ガキ 台下部被状方向へラナデ 内面：口縫部～脚部横方向ナデ後横方向へラ ミガキ 台部強方向ナデ後横方向へラケズリ	胎 砂粒を含む 色 にぶい褐色 焼 良	1/2は完形
4	弥生土器 台付壺	Y-5住 No.1	口 15.1 底 20.2 高 20.2	外面：口縫部強方向ナデ 脚部3進止端状文 脚上部被状により不明、被状文 脚下部横 方向へシケズリ 台部磨滅により不明 内面：磨滅により不明	胎 砂粒を多量含む 色 にぶい青褐色 焼 良	はぼ完形
5	土製品 軽輪車	Y-5住 10区3層	高 4.9、幅4.7、厚1.0、重量29.1g	上面は円形、側面は三舟赤瓦を施す。裏面が抉られているため断面は弓状となる。 裏面には盛唐時のヘラナデが残る。穿孔は中央部にあるくびれ、表と裏で穴の過 む方向が異なることから裏面から開けられたと思われる。		完形
1	土師器 环	YH-1住 カマド一 括	口 12.4 底 一 高 5.7	外面：口縫部横方向ナデ 体部横方向へラケ ズリ 底部へラケズリ 内面：横方向ナデ後体部強方向へラミガキ	胎 砂粒を含む 色 にぶい褐色 焼 良	完形
2	土師器 环	YH-1住 1SEZ2層 1SEZ2層	口 13.6 底 一 高 5.7	外面：口縫部横方向ナデ 体部へシダか 底部へラケズリ 内面：横方向ナデ後体部強方向へラミガキ	胎 砂粒を含む 色 棕褐色 焼 やや不良	はぼ完形
3	土師器 环	YH-1住 1S区2層 1SEZ2層	口 13.5 底 5.0	外面：口縫部横方向ナデ 体上部へラナデか 体下部強方向へラケズリ 内面：横方向ナデ後体部強方向へラミガキ	胎 砂粒を含む 色 棕褐色 焼 やや不良	口縫部～体下部 2/3

第4表 山土器観察表 (3)

通号	器種	出土位置	法 量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
4	土師器 环	YH-1住 15区3層 底 高	口 13.4 底 高 5.2	外面：口縁部横方向ナギ 体部横方向ナギか 指紋押痕底あり 底部へラケズリ 内面：底底により不明	胎 砂粒を多含む 色 棕色 焼 やや不良	ほぼ完形
5	土師器 环	YH-1住 12区3層 底 高	口 14.0 底 高 5.1	外面：口縁部横方向ナギ 体上部へラナギか 体下部横方向へラケズリ 底部へラケズリ 内面：横方向ナギ後体上部斜方向へラミガキ	胎 砂粒を含む 色 棕色 焼 良	ほぼ完形
6	土師器 甌	YE-1住 カマド一 括	口 13.4 底 高 (12.5)	外面：口縁部横方向ナギ 刷毛模・斜方向へ ラケズリ 内面：口縁部横方向ナギ 刷毛模・斜・幅方 向へラケズリ 瓢上部に板方向へラミガキ有り 腹部下端斜・斜方向へラケズリ	胎 砂粒を含む 色 棕色 焼 良	口縫底～鋸割ほぼ 完存
7	土師器 甌	YH-1住 11区3層 底 高	口 27.4 底 高 9.7 22.5	外面：口縫部横方向ナギ 瓢上部へ胴中部横 方向へラケズリ 刷毛模方向ナギか 胸部 下端焼付面へラナギ 内面：口縫部横方向ナギ 刷毛模・斜・幅方 向へラケズリ 瓢上部に板方向へラミガキ有り 腹部下端斜・斜方向へラケズリ	胎 砂粒小石を含む 色 茶黄褐色 焼 良	口縫底～瓶部1/2 刷上部～胴中部 4/5 瓶下部完存
8	土師器 甌	YH-1住 カマド一 括	口 20.8 底 高 (13.1)	外面：口縫部横方向へラナギ 刷毛模方向ナ ギ・指紋押痕・底 刷毛模斜方向へラケズリ 内面：口縫部横方向ナギ 刷毛模・斜方向へ ラケズリ	胎 砂粒多量小石含む 色 明茶褐色 焼 良	口縫部～刷上部 4/5
9	土師器 甌	YH-1住 底 括	口 7.8 底 高 (24.6)	外面：胸部横方向ナギ 刷上部～胴中部偏方 向へラケズリ 脚部模・斜方向へラケズリ 内面：脚部模方向ナギ 瓢上部・胴下部模方 向へナナギ 胸中部横方向へシナナギ	胎 砂粒小石を含む 色 にぶい黄褐色 焼 良	瓶部～胴中部2/3 刷上部～底部完存 胴中部に焼成後の 穿孔2箇所あり
10	土師器 甌	YH-1住 11区3層 底 高	口 16.7 底 高 7.2 29.5	外面：口縫部横方向へラナギ 瓢上部～胴中 部模方向へラケズリ 刷毛模方向へラケズリ 内面：口縫部横方向へシナナギ 刷毛模方向へ ラナギ	胎 砂粒小石を含む 色 棕色 焼 良	口縫部～底部完存 胴部3/4
1	土師器 甌	Y-1住 14区3層 底 高 (7.0)	口 17.2 底 高	外面：口縫部横方向ナギ 頭部横斜方向へラケ ズリ後部横方向ナギ 刷毛模方向へラケズリ 内面：口縫部へ胴上部斜方向へラナギ	胎 砂粒多量小石含む 色 にぶい黄褐色 焼 良	口縫部～胴上部 1/2
2	土師器 甌	3-1住 5区1層 底 高	口 15.8 (2.6)	外面：口縫部横方向ナギ 刷上部～胴中部偏 方向へラケズリ 内面：口縫部横方向へラナギ 胸上部横方向 へラナギ後部横方向へラナギ 刷毛模方向へ ラナギ	胎 砂粒小石を含む 色 棕色 焼 良	口縫部～胴上部 1/5
3	土師器 甌	3-1住 D 1	口 25.0 底 高 8.0 25.5	外面：口縫部～頭部横方向ナギ 頭部横斜方 向へラケズリ 脚部下端斜方向へラケズリ 内面：口縫部横方向ナギ 頭部横方向へラナ ギ 刷毛模方向へラケズリ	胎 砂粒小石を含む 色 にぶい黄褐色 焼 良	ほぼ完形
1	土師器 环	H-2住 10区3層 底 高 (5.3)	口 12.0 底 高	外面：口縫部横方向ナギ 体部横方向ナギ 内面：横方向ナギ	胎 砂粒を含む 色 棕色 焼 良	口縫部～体部2/5 横模環
2	土師器 环	H-2住 10区3層 底 高 4.5	口 14.0 底 高	外面：口縫部横方向ナギ 近底へラケズリ 内面：焼付5ナギ後体上部模方向へラミガキ	胎 砂粒を含む 色 棕色 焼 良	1/4
3	土師器 环	H-2住 10区3層 底 高 5.7	口 12.8 底 高	外面：口縫部横方向ナギ 底部へラケズリ 内面：底底により不明	胎 砂粒を含む 色 棕色 焼 やや不良	3/4
4	养生土器 小甌	H-2住 6区3層 底 高	口 13.6 底 高 (12.0)	外面：口縫部横方向ナギ 頭部崩滅により不 明 横方向へシナナギか 内面：口縫部横方向ナギ 体部模方向へラナ ギ 底部左側斜方向へラケズリ	胎 砂粒を含む 色 にぶい褐色 焼 良	口縫部～刷部1/2
1	土師器 环	H-3生 貯糞穴	口 12.8 底 高 3.6	外面：口縫部横方向ナギ 体部～底部模方 向へラケズリ 内面：口縫部横方向ナギ 体部模方向へラナ ギ 底部左側斜方向へラケズリ	胎 砂粒を含む 色 明茶褐色 焼 良	ほぼ完形

第5表 出土十器観察表(4)

通数	器種	出土位置	法 番	器形・技伝等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
2	上部器 环	H-3住 貯藏六	口 底 高	13.8 3.8 4.5 外面：口縁部横方向ナデ 体部～底部横方向 内面：口縁部模方向ナデ 体部～底部横方向 ヘラナデ	砂粒を含む 色 明赤褐色 燒 良	ほぼ完形
3	上部器 环	E-3住 15区3層	口 底 高	10.8 3.9 1.0 外面：口縁部横方向ナデ 体部～底部横方向 内面：口縁部～体上部模方向ナデ 体下部～ 底部模方向ヘラナデ	砂粒を含む 色 明赤褐色 燒 良	完形 模倣环
4	土師器 环	B-3住 16区3層	口 底 高	11.7 — 4.4 外面：口縁部横方向ナデ 体部～底部横方向 ヘラケズリ 内面：口縁部模方向ナデ 体部～底部横方向 ヘラナデ	砂粒を含む 色 暗赤褐色 燒 良	1/3 模倣环
5	土師器 环	H-3住 カマド 階	口 底 高	15.7 — (3.3) 外面：口縁部模方向ヘラナデ 体部横方向ヘ ラケズリ 内面：口縁部横方向ナデ 体部横方向ヘラナ デ	砂粒を含む 色 暗褐色 燒 良	口縁部～体上部 2/3
6	土師器 壺	H-3住 16区3層	口 底 高	10.1 — 0.7 外面：口縁部模方向ナデ 体部～底部模方向 ヘラケズリ 内面：口縁部～体上部横方向ナデ 体下部～ 底部横方向ヘラナデ	砂粒を含む 色 暗赤褐色 燒 良	完形
7	土師器 壺	K-1号塙 一折	口 底 高	13.0 — (18.8) 外面：口縁部～肩上部ヘラナデ後縫方向ヘラ ミガキ 剥り落～軸下部模方向ヘラケズリ 内面：口縁部～颈部模方向ヘラナデ 肩上部 指壓押工痕 腹中部～腹下部模方向ナデ	砂粒を含む 色 暗褐色 燒 良	口縁部～肩上部 4/5 肩中部～肩下部 2/3

※（ ）は残存

第6表 出土土器総観表(5)

番号	種類	計測値(cm)	内面		透丸 断面形状	透丸 形状	透丸 横×横	鉄土・色刷 片岩・粗粒 チャート 明黄褐色	刷毛目 /2cm	成形・整形の特徴	出土 位置	備考
			内面	透丸								
1	円筒埴輪	底径 (10.9) 1段 15.3	三角形	-				片岩・粗粒 チャート 明黄褐色	10~13	外面 繊刷毛。 摩滅著しい。 内面 繊指ナデ。		底面に焼きムラ あり。底面に傳 状圧痕。
2	円筒埴輪	底径 12.2 1段 14.3	三角形	-	-			片岩・粗粒 チャート 明黄褐色	13	外面 繊刷毛。 内面 繊指ナデ。		底面に焼きムラ あり。底面に傳 状圧痕。
3	円筒埴輪	底径 11.9 1段 12.5	三角形	-	-			片岩・粗粒 チャート 橙色	12~14	外面 繊刷毛。 内面 繊指ナデ。		底面に棒状圧 痕。
4	円筒埴輪	底径 12.7 1段 15.1	三角形	円	× (6.6)			片岩・粗粒 チャート 橙色	13	外面 繊刷毛。 内面 繊指ナデ。		底面に棒状圧 痕。
5	円筒埴輪	底径 12.0 1段 14.2	三角形 ～ 台形	-	-			片岩・粗粒 チャート 明黄褐色	11~13	外面 繊刷毛。 内面 繊指ナデ。		外面底部に木目 状圧痕、底面に 棒状圧痕。
6	円筒埴輪	底径 13.0 1段 13.1	三角形 ～ 台形	-	-			片岩・粗粒 チャート 橙色	12~13	外面 繊刷毛。 内面 繊指ナデ。		外面1段にヘラ の跡があり。底 面に棒状圧痕。
7	円筒埴輪	底径 13.2 1段 12.0	三角形					片岩・粗粒 チャート 橙色	7~11	外面 繊刷毛。 内面 繊指ナデ。		底面に棒状圧 痕。
8	円筒埴輪	底径 (12.0) 1段 12.2	三角形	-	-			片岩・粗粒 チャート 明赤褐色	13~15	外面 繊刷毛。 内面 繊指ナデ。		底面に棒状圧痕。 外側1段の剥落 新しい。
9	円筒埴輪	底径 12.3 1段 13.0	台形	-	-			片岩・粗粒 チャート 橙色	14~15	外面 繊刷毛。 摩滅著しい。 内面 繊指ナデ。		底面に棒状圧 痕。
10	円筒埴輪	底径 11.8 1段 15.3	三角形 ～ 台形					片岩・粗粒 チャート 明褐色	11~13	外面 繊刷毛。 内面 繊指ナデ。 指圧痕。		底面に棒状圧痕。 外側1段の剥落 著しい。
11	円筒埴輪	底径 12.2 1段 14.1	三角形	円	-×8.3			片岩・粗粒 チャート 橙色	12~15	外面 繊刷毛。 内面 繊指ナデ。		外側2段に擦痕 あり。底面に棒 状圧痕。
12	円筒埴輪	底径 12.2 1段 14.3	台形	-	-			片岩・粗粒 チャート 橙色	10~13	外面 繊刷毛。 内面 繊指ナデ。		
13	円筒埴輪	底径 13.1 1段 16.2 2段 11.6	三角形	円	7.2×(6.4)			片岩・粗粒 チャート 明褐色	11~13	外面 繊刷毛。 内面 繊指ナデ。		外側底部に木目 状圧痕。底面に棒 状圧痕。
14	円筒埴輪	底径 12.6 1段 11.9	台形	-	-			片岩・粗粒 チャート 橙色	13~15	外面 繊刷毛。 摩滅著しい。 内面 繊指ナデ。		底面に棒状圧 痕。
15	橢圓形 円筒埴輪	L:径 (33.2) 高さ 50.8 底径 (13.0) 1段 16.5 2段 8.6 3段 9.8 4段 8.2 5段 4.7 6段 9.0	三角形 ～ 台形	円	5.5×5.4			粗粒 チャート にぶい 黄褐色	12	外面 繊刷毛。第4段 はやや斜め削れ。 第5段は少しがたか。 内面 繊指ナデ。第5 段は斜め削りナデ。 第6段は斜め削 り、口縁部擴大 ナデ。		第4段外側に擦 痕あり。第1段 外側の剥離著 しい。
16	円筒埴輪	底径 (11.5) 1段 12.9	三角形					片岩・粗粒 チャート 黄褐色	9~11	外面 繊刷毛。 摩滅著しい。 内面 繊指ナデ。 指圧痕。		底面に棒状圧 痕。

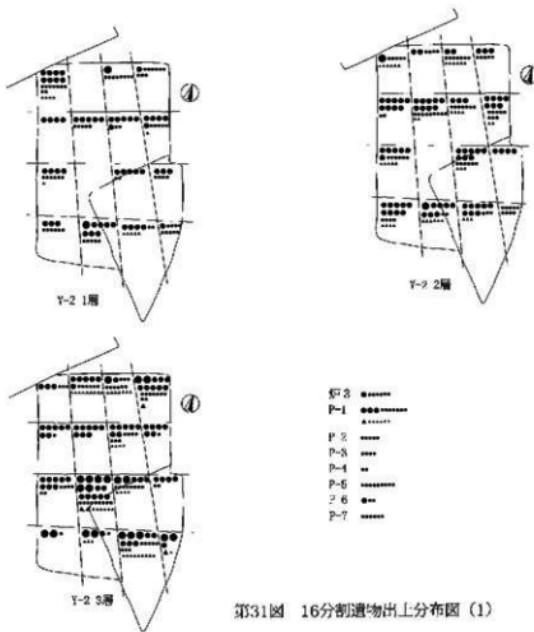
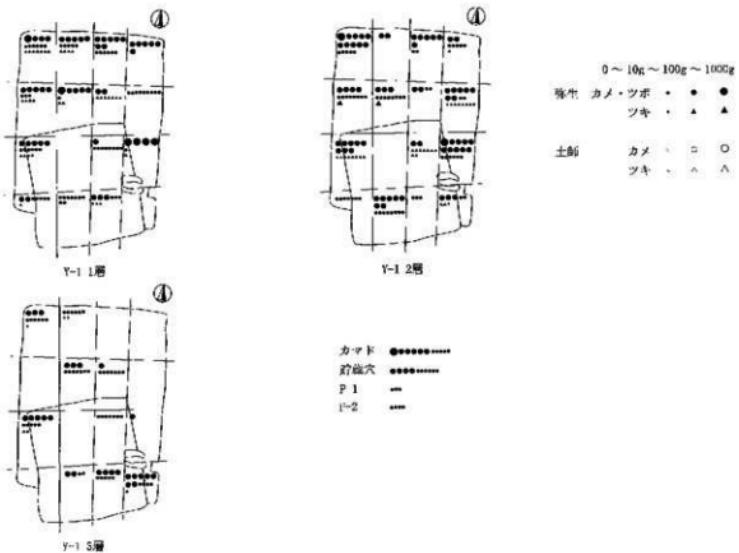
第7表 埋輪観察表(1)

番号	種類	計測値(cm)	凸部 断面形状	透孔 形状	鉄土・色調 銀×模	別セリ /2cm	成形・鋸形の特徴		出土 位置	備考	
							外面	内面			
19	円筒埴輪	底径 11.8 1段 18.0	三角形	-	片岩・粗粒 チャート 橙色	13~14	外面 線刷毛。 摩滅著しい。 内面 線指ナデ。			底面に棒状压痕。	
20	円筒埴輪	底径 13.0 1段 14.3	三角形	-	片岩・粗粒 チャート 橙色	13~15	外面 線刷毛。 内面 線指ナデ。			底面に棒状压痕。	
21	円筒埴輪	底径 12.7 1段 10.6	台形	-	-	片岩・粗粒 チャート 橙色	13~15	外面 線刷毛。 内面 線指ナデ。		外曲底部に木目压痕。底面に棒状压痕。	
22	円筒埴輪	底径 11.9 1段 14.8	三角形 ~ 台形	-	片岩・粗粒 チャート 明黄橙色	12~13	外面 線刷毛。 内面 線指ナデ。			底部に流ムラがあり欠損する。底面に棒状压痕。	
23	円筒埴輪	底径 12.1 1段 13.1	台形	-	-	片岩 チャート 橙色	11~13	外面 線刷毛。 内面 線指ナデ。		底面に棒状压痕。	
24	円筒埴輪	底径 12.2 1段 12.8	三角形 ~ 台形	-	-	粗粒 チャート 橙色	15~16	外面 線刷毛。 内面 線指ナデ。		底部に流ムラがあり欠損する。底面に棒状压痕。	
25	円筒埴輪	底径 11.7 1段 12.5	三角形	-	-	片岩・粗粒 チャート 橙色	12~14	外面 線刷毛。 摩滅著しい。 内面 線指ナデ。		底面に流ムラがあり欠損する。底面に棒状压痕。	
27	胡瓶形 円筒埴輪	口徑(34.2) 底径(15.2) 1段 7.4 2段 8.1 3段 11.2 4段 7.5 5段 - 6段 11.1	台形	円形	5.2×6.1	粗粒 チャート 橙色~ 灰黄色	13~15	外面 線刷毛。 口部粗粒ナデ。 内面 指ナデ。 第5段は斜め ハケ、口部粗 粒ナデ。			第4段外面に線 刻あり。底部に 流ムラがあり欠 損する。底面に 棒状压痕。1~ 4段の内外面は 大半が灰黄色を 呈する。
28	円筒埴輪	底径 13.1 1段 14.7	台形	-	-	片岩・粗粒 チャート 橙色	13~15	外面 線刷毛。 摩滅著しい。 内面 線指ナデ。		底面に棒状压 痕。	
29	円筒埴輪	底径 13.9	-	-	-	粗粒 チャート 橙色	14	外面 線刷毛。 内面 線指ナデ。		底面に棒状压 痕。	
30	円筒埴輪	底径 12.4 1段 15.5	三角形	-	-	片岩・粗粒 チャート 橙色	14~15	外面 線刷毛。 内面 線指ナデ。		外曲底部に木目 压痕。底面に棒 状压痕。	

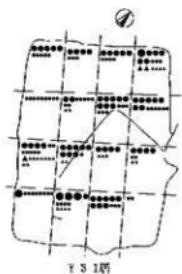
第8表 墓輪観察表(2)

番号	器種	計測値(cm)			備考	
		残存全長	刃部残存長	刃部幅		
1	直刀	158	87	3.1~4.1	刃部背厚: 0.6~1 茎部長: 20.2 茎部元幅: 2.6 茎部背厚: 0.8	不均等開闊 口釘穴あり
2	直刀	全長: 98.8 両部残存長: 78.9 刃部幅: 2.5~3.3 刃部背厚: 0.7~0.9 茎部残存長: 12 茎部元幅: 2.3 茎部背厚: 0.4			不均等開闊? 目釘穴あり	

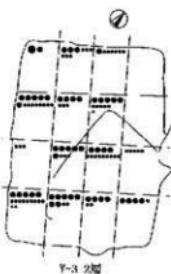
第9表 刀観察表



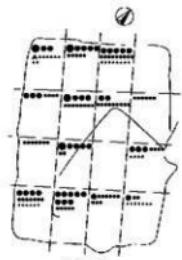
第31図 16分割遺物出土分布図(1)



Y-3 1層



Y-3 2層



Y-3 3層

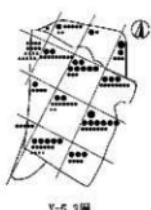
NO. 1	****
NO. 2	*****
NO. 3	*****
NO. 4	***
NO. 5	*****
NO. 6	*****
NO. 8	*****
NO. 9	*****
P-1	**
P-2	***
P-3	**
P-4	**
P-5	*
P-6	-
P-7	---
P-8	---
P-9	*****
P-10	*
P-11	---
P-12	---



Y-5 1層



Y-5 2層



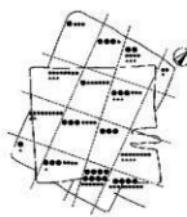
Y-5 3層

NO. 1	*****
NO. 2	*****
NO. 3	*****
NO. 4	*****
NO. 5	*****
P-1	**
P-2	***
P-3	**
P-4	*****
P-5	*
P-6	*****

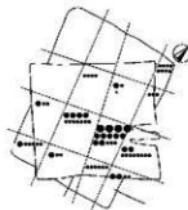
第32図 16分割遺物出土分布図(2)



YH-1 1階

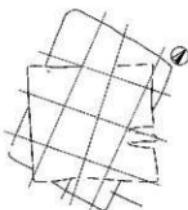


YH-1 2階



YH-1 3階

鉄麻穴
カマド	●●●●
NO.1	○○○○○○○○
P-1	- - - - -
P-2	— — — — —
P-3	.



YH-1 1階



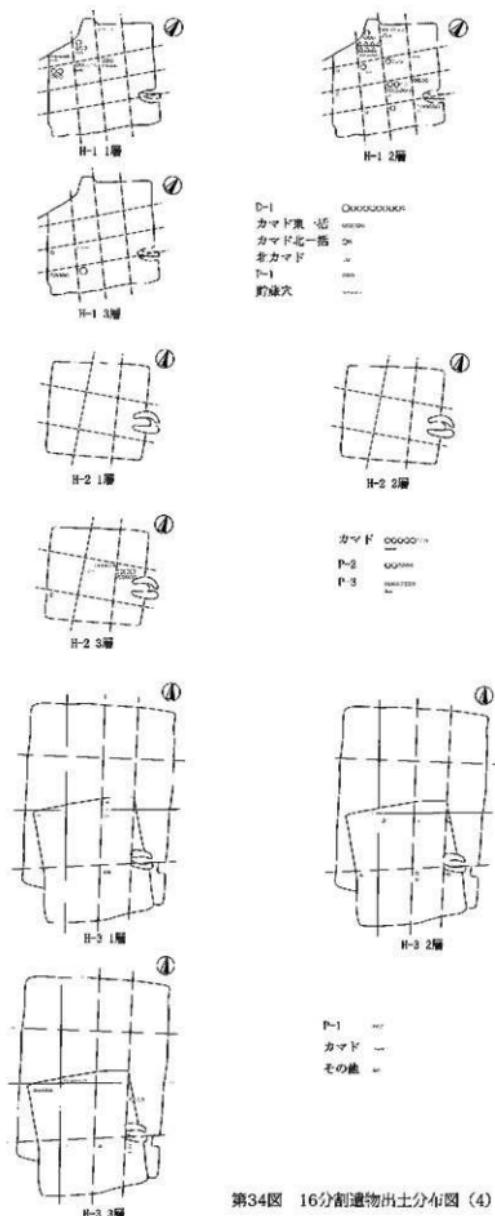
YH-1 2階



YH-1 3階

カマド	CHAKUDOKI
NO.1	-
P-1	○
P-2	△
P-3	□
P-4	△△

第33図 16分割遺物出土分布図 (3)



第34図 16分割遺物出土分布図(4)

VII まとめ

はじめに

高橋IV遺跡は先にふれたとおり、『古屋地区遺跡群』(高橋遺跡、高橋II遺跡、高橋III遺跡)の一端にあたる遺跡である。古屋地区遺跡群は、八咫川が九十九川に注ぎ込む流末の舌状微高地先端に位置し、この舌状微高地は2枚の泥流層の堆積で形成されたことが確認されている。

遺構は上部泥流層上で確認され、『古屋地区遺跡群』(高橋遺跡、高橋II遺跡、高橋III遺跡)からは弥生時代の住居址69軒、4世紀後半の住居址5軒、5世紀後半に住居址37軒、6世紀前半の住居址17軒、8世紀の住居址1軒、不明の住居址1軒、古墳8基、配石遺構1基、堅穴状遺構1基、掘立柱建物址1棟、溝2条が検出されており、今回の高橋IV遺跡の調査で確認された弥生時代の住居址7軒、5世紀後半の住居址3軒、6世紀前半の住居址1軒、古墳1基を加え、弥生時代の住居址76軒、5世紀後半の住居址40軒、6世紀前半の住居址18軒、古墳9基が確認されたことになる。

今回の発掘地区は舌状微高地の西の付け根近くにあたるため、高橋遺跡・高橋II遺跡・高橋III遺跡と合わせて舌状微高地の90%が調査されたことになる。今回の調査結果を見ると、住居址はまだ西に伸びていくことが推測されるため、舌状微高地西端の付け根部分も注意して見る必要がある。

『古屋地区遺跡群』報告の中で、本遺跡の南西約400m付近で調査された杉名薬師遺跡との関係性を指摘したが、今回の調査によても、両遺跡の関係性は強く裏付けられるものとなつた、と考えられる。

弥生時代

検出された遺構は住居址7軒で、『古屋地区遺跡群』(高橋遺跡、高橋II遺跡、高橋III遺跡)において分類したとおり、長軸が8m以上の大型のもの、長軸が7m前後の中型のもの、長軸が5m～6mの小型のものに大別することが出来る。主軸方向は南北を指向する。

住居址の構造を観ると、主柱穴1本と住居中央に幾つかの柱穴を持つ。地床炉は北よりの土柱穴の間に設置され、炉の延長線上壁際に棟持柱と考えられる柱穴を1本持ち、切り妻の構造が考えられる。また、棟持柱と考えられる柱穴とは対面側の壁際に2本～4本の柱穴が確認され、棟持柱や出入り口施設に関係する柱穴と考えられる。以上のような構成が住居址の基本型と考えることが出来る。この他大型の住居址の壁際に、小さな柱穴が規則的に配されており、住居壁面の構造に關係する柱穴と考えられる。これらの特徴も『古屋地区遺跡群』(高橋遺跡、高橋II遺跡、高橋III遺跡)と同様である。

出土遺物は弥生時代後期～中期(V期)であり、遺物の遺存状態は比較的良好で、特にY3

住（B）では、あたかも土器が床面に置かれていた状況を示すような出土状態が見られた。

つぎに『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）で指摘した杉名薬師遺跡との関係についてであるが、今回の調査結果もそれを裏付けるものとなろう。以下に『古屋地区遺跡群』の抜粋を記しておく。

「杉名薬師遺跡との関係は、杉名薬師遺跡の最盛期が弥生V期（後期）で、高橋遺跡と同時期であることと、立地環境的観点からも両遺跡は一連の集落と考えられる。九十九川や八咫川の形成した低地に、水田可耕地を広げていた集落が、高所の杉名薬師遺跡から低所の高橋遺跡へ集落拡大していったものと考えられる。なお、高橋遺跡周辺の低地に於いて水田址等の生産遺構を確認するため試掘調査を実施したが、当該期はもとより、九十九川流域では一般的に確認の出来る浅間B軽行下の遺構も確認することは出来なかった。これは河川氾濫により土壤が流失してしまったためで、水田耕作の可能性を否定するものではない。」

古墳時代

検出された遺構は5世紀後半の住居址3軒、6世紀前半の住居址1軒である。

5世紀後半の住居址は、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）の分類基準の小型（長軸が4m～5m）の住居址で、主軸方向は北東を指向し、東に竈を設けている。H-1号住に関しては北壁にも竈が設けられているが、新旧関係等は明確に確認できなかった。『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）において、このような類例は6世紀前半の住居址で1軒確認されているが5世紀後半の住居址での例はない。東竈に比べ北側の竈作りがしっかりととしていること、東南壁の両隅に貯蔵穴様の上坑が検出されたことが特徴としてあげられる。

6世紀前半の住居址は、規模、東指向の主軸方向など、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）の中でもっとも高い出現率を示すタイプである。

古墳

前述のとおり古墳は1基検出された。時期は古墳時代後期のものと思われ、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）検出の8基と同時期と考えられる。『古屋地区遺跡群』で記述したとおり、杉名薬師遺跡の周辺には古墳が7基存在していることが、市内遺跡群細分布調査で確認されている。いずれも円墳と思われ、散石遺物などからも高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡、高橋Ⅳ遺跡で確認された9基の古墳と同時期と考えられる。これらと合わせた16基の古墳は、九十九川右岸の杉名薬師地区を中心とした古墳時代後期の群集墳として捉えることができるであろう。

写 真 図 版

図版1



高橋IV遺跡遠景

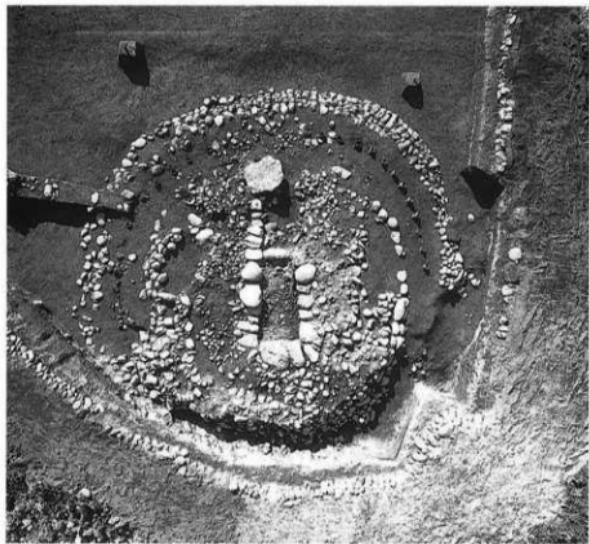


高橋IV遺跡全景

図版2



高橋IV遺跡全景



K-1号墳全景

図版3



Y-1・H-3



Y-1・H 3



Y-2 (A)・(B)



Y-2 (A)・(B)



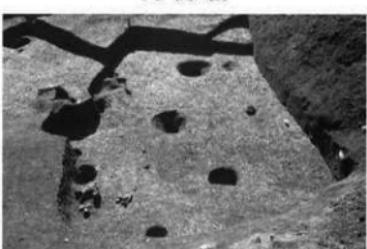
Y-3 (A)・(B)



Y-3 (A)・(B)



Y-3 (A)・(B)



Y-5

図版4



YH-1



YH-1



H-1



H-2



K-1



K-1



K-1



K-1

図版5

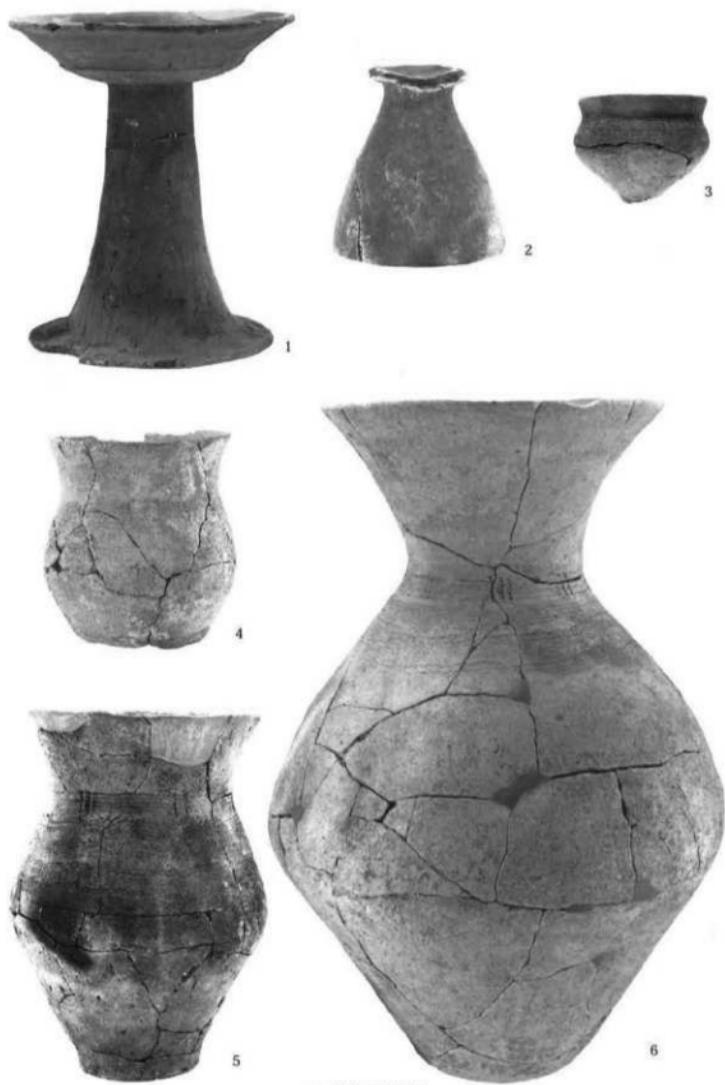


K-1



K-1

図版6



Y-1号住出土遺物



Y-2号住出土遺物（1）

図版8



Y-2号住出土遺物 (2)



Y-3号住出土遺物（1）

図版10



Y-3号住出土遺物 (2)

図版11



10



11

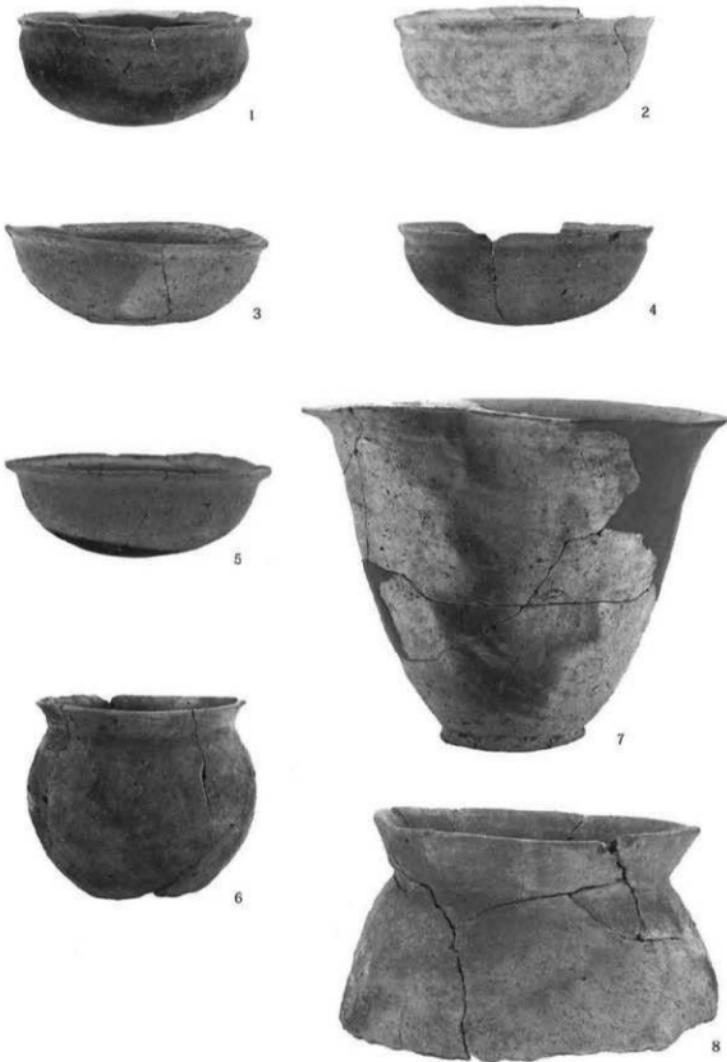
Y-3号住出土遺物 (3)

图版12



Y-5号住出土遗物

図版13



YH-1号住出土遺物（1）

图版14



9



10

YH-1号住出土遗物 (2)



1



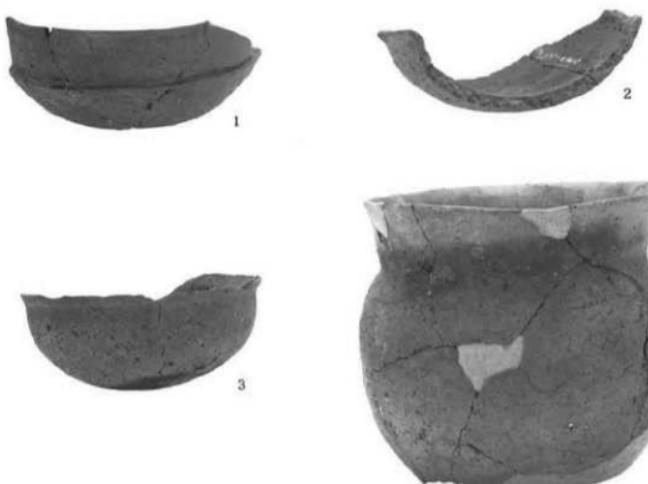
2



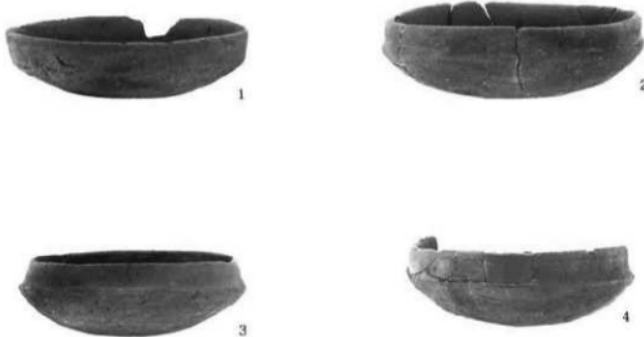
3

H-1号住出土遗物

図版15



H-2号住出土遺物



H-3号住出土遺物 (1)

图版16



5



6

H-3号住出土遗物 (2)



1

K-1号填出土遗物

図版17



1



2



3



4



5



6



7



8



9

K-1号墳 墳輪(1)

図版18



K-1号墳 墳輪(2)

図版19



22



23



24



26



28



29



30

K-1号墳 塗輪(3)

図版20



16

K-1号墳 墳輪(4)



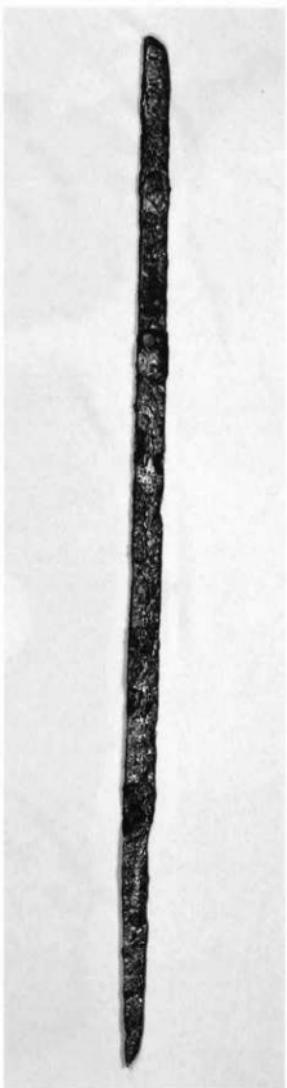
27

K-1号墳 墓輪(5)

図版22



K-1号填刀1



K-1号填刀2

発掘調査 抄録

ふりがな	たかはしよんいせき (ふるやちくいせきぐん)
書名	高橋IV遺跡（古墳埠区武跡郡）発掘調査報告書
副書名	老人スポーツ広場用地取得事業に伴う知多文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
著者名	丁田茂雄 鬼形數子
編集機関	安中市教育委員会
著者機関所在地	379-0292 愛知県安中市松井田町新越245 TEL027-382-1111
発行年	西暦2009年 3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ° °	東經 ° ° °	調査期間	調査面積	調査範囲
高橋IV遺跡	安中市古原字 高橋	102113 D-23	36°19'29"	138°51'59"	20070821～ 20080331 20080401～ 20090331	13,100m ²	老人スポーツ 広場用地取得 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高橋IV遺跡	集落	弥生時代 5世紀後半 6世紀前半	住居址7軒 住居址3軒 住居址1軒 古墳1基	土器 土器蓋・須志型 須志器・城輪・ 刀	弥生時代後期・5世紀後半 から6世紀前半にかけての 集落址 斜面腰により形成された古 墳陵高地に囲まれた集落

高橋IV遺跡（古屋地区遺跡群）
発掘調査報告書

老人スポーツ広場用地取得事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日 平成21年3月31日
編集・発行 安中市教育委員会
群馬県安中市松井町新堀245
印 刷 朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元能町67